

第2次健康知立ともだち21計画
第2次知立市食育推進計画
中間評価報告書

2020年3月
(令和2年)
知立市

目次

第1章	計画の中間評価について	1
1	中間評価	1
2	中間評価の目的	1
3	中間評価の実施方法	1
4	目標の達成状況の評価	2
第2章	中間評価の総括	3
1	第2次健康知立ともだち21計画目標の達成状況	3
2	第2次知立市食育推進計画目標の達成状況	5
第3章	第2次健康知立ともだち21計画の 評価及び見直し	7
1	生活習慣を見直し健康を増進します	7
2	疾病の発症予防と重症化予防を徹底します	21
3	社会で支える健康づくりを推進します	26
第4章	第2次知立市食育推進計画の 評価及び見直し	28
1	食育で心を育もう	28
2	食育でからだを育もう	31
3	食を取り巻く環境を整えよう	35
第5章	計画後半に向けた活動戦略	38



第 1 章

計画の中間評価について

1 中間評価

本市では、2015（平成 27）年 3 月に、市民の健康の増進に関する施策を総合的・計画的に推進するため 2015（平成 27）年度から 2024（令和 6）年度までの 10 年間の計画期間とする「第 2 次健康知立ともだち 21 計画」を策定しました。「すべての市民が共に支えあい、希望や生きがいを持ち、各世代に応じた健康づくりを实践するまち 輝くまち みんなの知立」を基本理念として、子どもから高齢者まですべての市民が、健やかで心豊かに生活できる環境整備を目的に、健康づくりの計画を推進しています。

「第 2 次知立市食育推進計画」は 2015（平成 27）年に、市民に対する食育の周知を一層進めるとともに、食育に関する正しい知識をもとに、一人ひとりが実践していくことを目的に様々な取り組みを実施してきました。

この度、計画の中間年度である 2019（令和元）年度に、これまでの取り組み等について中間評価を実施しました。

2 中間評価の目的

計画策定時に設定した目標項目について、その達成状況を統計データやアンケート調査により得られた結果をもとに分析評価し、各分野で行われている取り組みの更なる充実を図ります。

3 中間評価の実施方法

本評価は、以下の作業により実施しました。

- ① 統計データ等による本市（本県）の健康に関する調査
- ② 分野別取り組みの検証
- ③ 健康づくり・食育に関する市民アンケート調査（20～74 歳用）、食育に関するアンケート調査（小中学生用）、子どもの生活状況アンケート調査（公私立保育園幼児保護者用）の実施
- ④ 計画の評価等
 - ・分野別目標の達成状況
 - ・市民の健康づくりに対する課題の抽出
 - ・今後の取り組みの抽出
 - ・計画後半に向けての活動戦略に追加する事項の抽出
- ⑤ 知立市保健対策推進会議からの意見聴取
- ⑥ 「第 2 次健康知立ともだち 21 計画・第 2 次知立市食育推進計画中間報告書」の取りまとめ

4 目標の達成状況の評価

評価指標については、計画で示した目標項目について、基準値 2015（平成 27）年と比較し以下の基準により判定を行いました。

■達成率の算出方法

$$(\text{直近値} - \text{基準値}) \div (\text{目標値} - \text{基準値}) \times 100 = \text{達成率}$$

※基準値は、基本的に策定時の数値としています。

■目標達成度の判断基準

判定区分	判定基準
A：目標値に到達した（達成）	目標達成、または達成率 90%以上
B：目標値に到達していないが改善した（改善）	達成率 10%以上 90%未満
C：変化がない（変わらない）	達成率 -10%以上 10%未満
D：悪化している（悪化）	達成率 -10%未満
E：判定ができない（判定不能）	判定不能



第2章

中間評価の総括

1 第2次健康知立ともだち21計画目標の達成状況

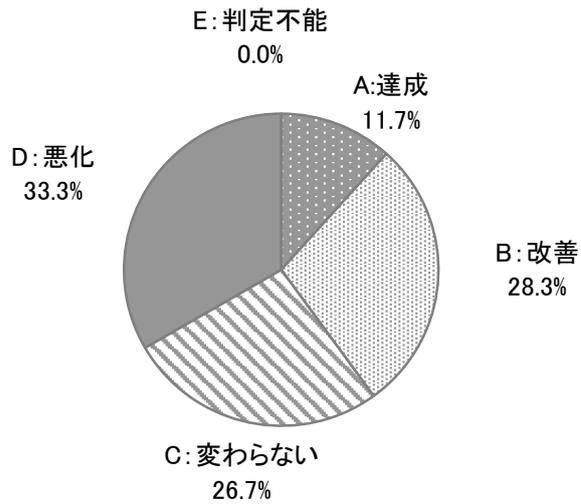
第2次健康知立ともだち21計画に掲げた60指標の達成状況は次表のとおりです。

全体として、「目標値に到達した（A判定）」及び「目標値に到達していないが改善した（B判定）」とした指標が24指標（40.0%）となっているものの、「悪化している（D判定）」とした指標が20指標（33.3%）となっており、「変化がない（C判定）」とした指標の16指標（26.7%）を含めて、今後の課題となっています。

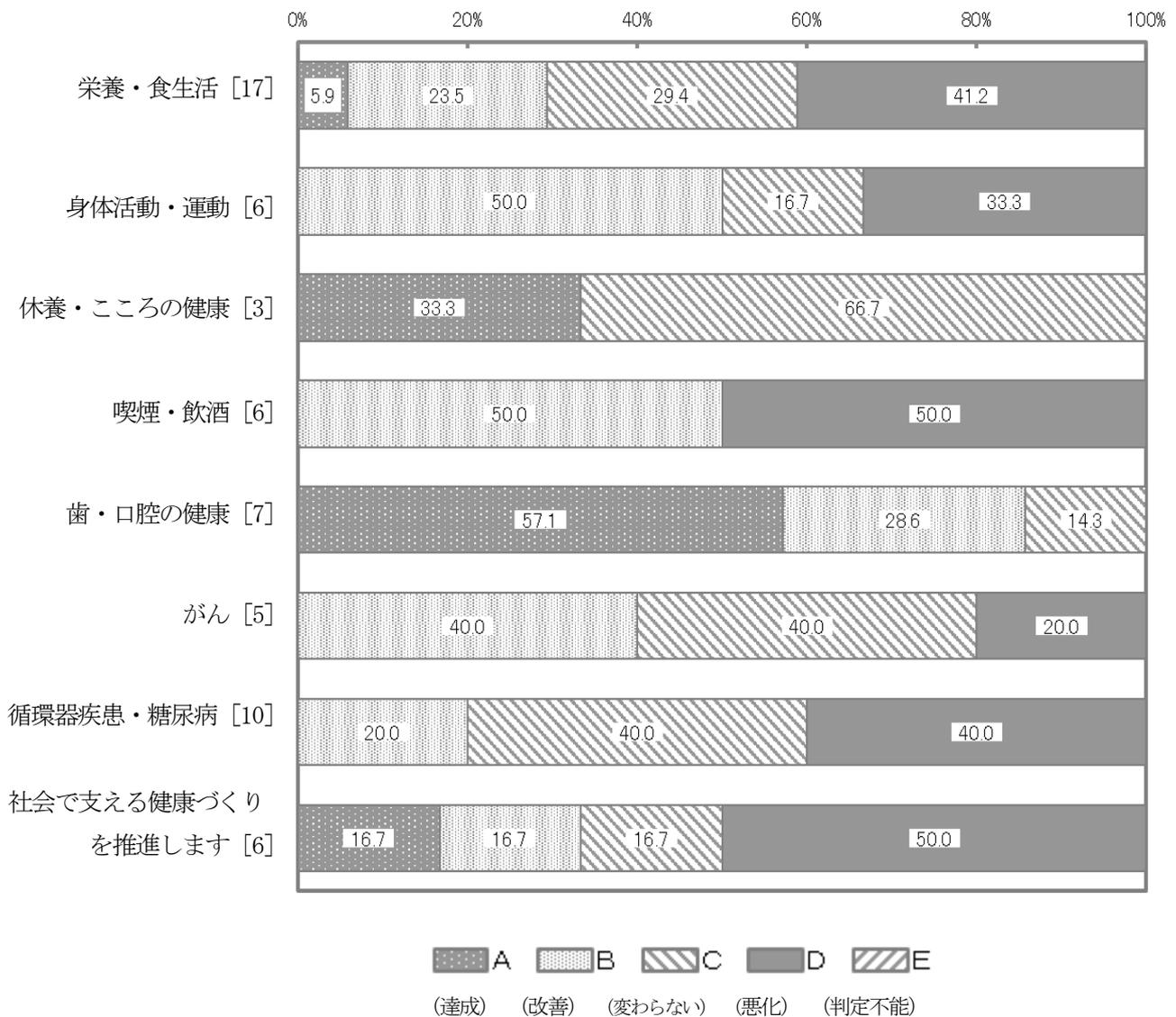
■分野別の指標達成状況一覧

基本方針・分野		評価 指標 項目数	達成状況				
			A 達成	B 改善	C 変わ らない	D 悪化	E 判定 不能
生活習慣を見直し 健康を増進します	① 栄養・食生活	17	1	4	5	7	0
	② 身体活動・運動	6	0	3	1	2	0
	③ 休養・こころの健康	3	1	0	2	0	0
	④ 喫煙・飲酒	6	0	3	0	3	0
	⑤ 歯・口腔の健康	7	4	2	1	0	0
疾病の発症予防と 重症化予防を徹底 します	① がん	5	0	2	2	1	0
	② 循環器疾患・糖尿病	10	0	2	4	4	0
社会で支える健康づくりを推進します		6	1	1	1	3	0
合 計		60	7	17	16	20	0

(1) 全分野における目標達成状況



(2) 各分野における目標達成状況



※グラフ、表の割合 (%) について小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、100%とならないことがあります。

2 第2次知立市食育推進計画目標の達成状況

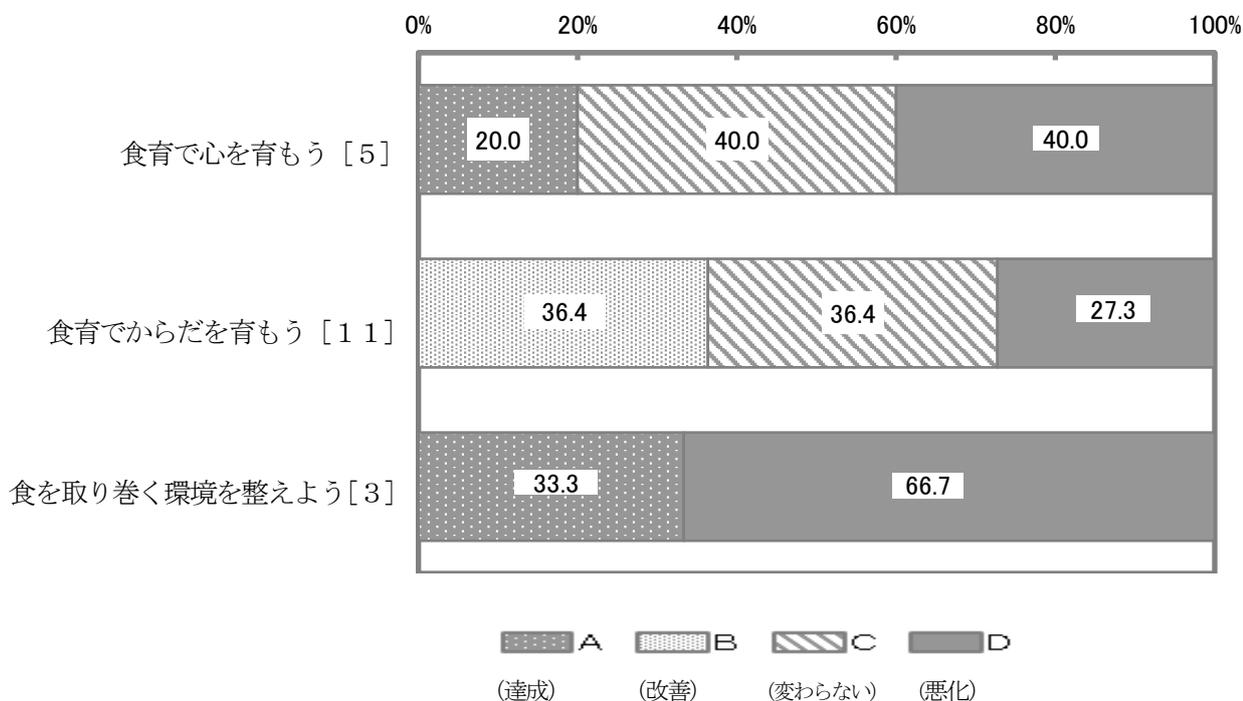
第2次知立市食育推進計画に掲げた19指標の達成状況は次表のとおりです。

全体として、「目標値に到達した（A判定）」及び「目標値に到達していないが改善した（B判定）」とした指標が6指標（31.6%）となっているものの、「悪化している（D判定）」とした指標が7指標（36.8%）となっており、「変化がない（C判定）」とした指標の6指標（31.6%）を含めて、今後の課題となっています。

■分野別の指標達成状況一覧

基本方針・分野	評価 指標 項目数	達成状況			
		A 達成	B 改善	C 変わらない	D 悪化
食育で心を育もう	5	1	0	2	2
食育でからだを育もう	11	0	4	4	3
食を取り巻く環境を整えよう	3	1	0	0	2
合 計	19	2	4	6	7

各分野における目標達成状況



※グラフ、表の割合 (%) について小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、100%とならないことがあります。

第3章・第4章の調査結果の表示方法

- グラフ、表の割合（%）について小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100%を上下する場合があります。
- 調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高いものを  で網掛けをしています。（無回答を除く）



第3章

第2次健康知立ともだち21計画の評価及び見直し

1 生活習慣を見直し健康を増進します

(1) 栄養・食生活

■評価指標の目標値と現状値

評価指標	対象者	策定時 (H25年度)	目標値 (R6年度)	現状値 (R1年度)	判定
朝食を欠食する人の割合の減少	園児	3.9%	0.0%	5.8%	D
	児童	3.9%	0.0%	6.8%	D
	生徒	7.0%	3.0%	7.8%	D
	20歳代	23.0%	15.0%	18.2%	B
	40～64歳	11.4%	10.0%	9.0%	A
朝食に野菜を食べている人の割合の増加	園児	28.7%	80.0%	24.6%	C
	児童	36.1%	80.0%	38.3%	C
	生徒	30.1%	80.0%	38.8%	B
	20歳以上	34.7%	80.0%	31.8%	C
肥満者の割合の減少	3歳児	5.9%	4.8%	5.9%	C
	園児	3.2%	2.7%	4.0%	D
	児童	6.1%	5.0%	9.2%	D
	生徒	8.6%	8.0%	9.4%	D
	40～64歳	25.1%	21.8%	28.8%	D
よく噛んで食べる人の割合の増加	児童	52.9%	70.0%	58.3%	B
	生徒	33.6%	70.0%	55.5%	B
	20～74歳	35.3%	70.0%	33.2%	C

- 「朝食を欠食する人の割合」は、園児・児童・生徒は増加し、20歳代・40～64歳は減少しています。
- 「朝食に野菜を食べている人の割合」は、園児・児童・20歳以上では横ばいとなっていますが、生徒では増加しています。
- 肥満者は園児・児童・生徒・40～64歳とほぼすべての年代で増加しています。
- 「よく噛んで食べる人の割合」は20～74歳で減少していますが、児童・生徒では増加しています。

■ これまでの取り組み

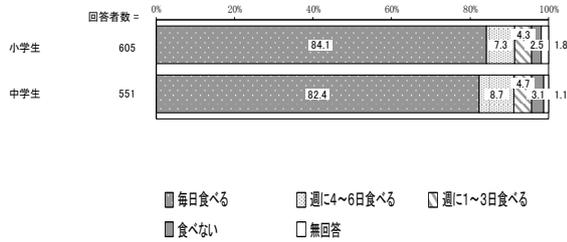
- ◎ 栄養バランスよく食べることを周知・啓発し、支援します
- ◎ 給食を通して「栄養バランスよく食べること」への関心を高めます
- ◎ 1日野菜350gを目標に食べるよう周知・啓発し、支援します
- ◎ 必要な食事量を知り、適正体重を管理できるよう周知・啓発し、支援します
- ◎ 朝食を必ず食べるよう周知・啓発し、支援します
 - ・広報、ホームページ、庁内放送、電光掲示板等、福祉健康まつりによる啓発（健康増進課）
 - ・健康教育の実施（メタボ講座・パパママクラス栄養コース）（健康増進課）
 - ・市民講座の実施、生涯学習フェスティバルでの啓発（生涯学習スポーツ課）
 - ・保健だより、食育だより等による啓発（子ども課・教育庶務課・学校教育課）
 - ・小学校3年生・中学1年生を対象に給食指導の実施（教育庶務課）
 - ・学級活動、給食指導、放送を通じての啓発（学校教育課）
- ◎ 健康推進員、食生活改善推進員（現：食育知立（ともだち）の会）など栄養・食生活に関する取り組みを行うボランティアを育成支援します
 - ・食育知立（ともだち）の会の研修、講座の開催（健康増進課）
 - ・健康推進員の養成講座の開催、講座の開催（健康増進課）
- ◎ 肥満傾向のある児童保護者に対して、基本的な食生活の形成につなげるよう支援します
 - ・保健だより等による啓発（子ども課・学校教育課）
 - ・個別健康相談の実施（子ども課・学校教育課）
- ◎ 自分で調理ができない高齢者等を対象に配食支援を行い、栄養改善の補助をします
- ◎ 介護予防プランに基づき、栄養改善事業を実施し、生活機能の維持改善に努めます
 - ・宅配給食サービス事業の実施（長寿介護課）

■市民アンケート結果

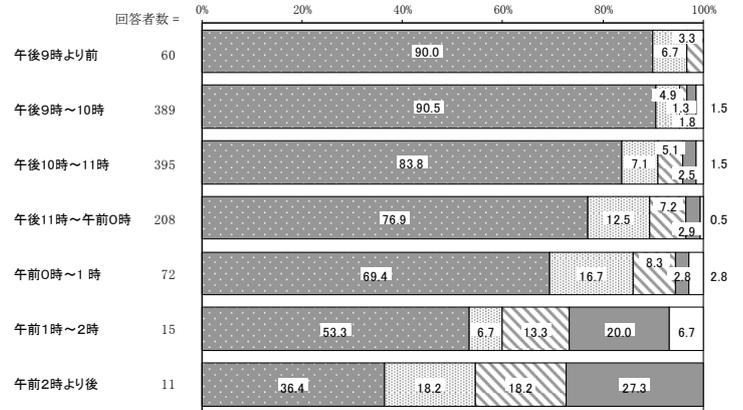
◇あなたは、いつも朝ごはんを食べていますか

小中学生ともに、「毎日食べる」の割合が80%を超えています。就寝時間別でみると、就寝時間が遅くなるにつれて「毎日食べる」の割合が低くなる傾向がみられます。

【小中学生】

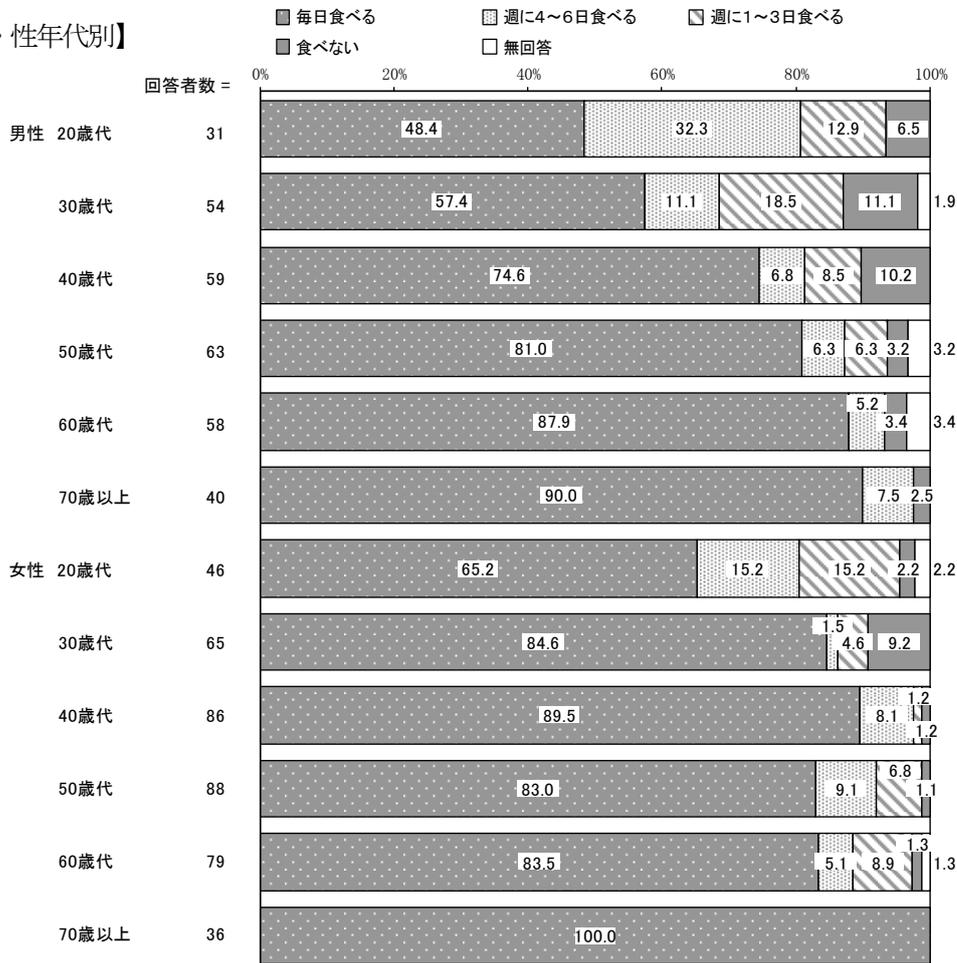


【小中学生・就寝時間別】



性年代別にみると、男性で年代が高くなるにつれて「毎日食べている」の割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ、男性30歳代、40歳代、女性の30歳代で「食べない」の割合が高くなっています。

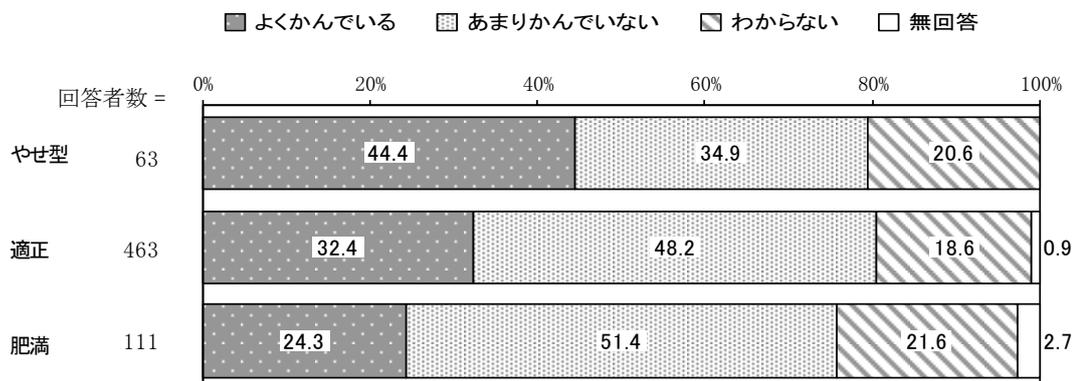
【市民・性年代別】



◇あなたは、よくかんで食べるようにしていますか。

BMI別でみると、BMIが高くなるにつれ「あまりかんでいない」の割合が高くなっています。

【市民・BMI別】



※BMI (Body Mass Index) とは、肥満の判定に用いられる体格指数のこと。

体重 (kg) ÷身長 (m) ÷身長 (m) で求められることができる。

判定	BMI
やせ型	18.5 未満
適正	18.5～25 未満
肥満	25 以上

(日本肥満学会)

■課題と今後の取り組み

○「朝食を欠食する人の割合」が20歳代、40～64歳では改善がみられますが、園児、児童、生徒では割合が増加し、悪化しています。

園児・児童は健全な食生活につながる基本的な生活習慣を獲得し定着させる時期です。また保護者の食行動に影響されるため、保護者へ適切な食習慣を身に付けられるような働きかけが必要です。

朝食を欠食すると午前中の活動が満足にできません。現行施策に加え、朝食の具体的な献立例を紹介するなど、朝食摂取に関する取り組みを推進していきます。

○乳幼児期、学童期、成人期の全てにおいて、肥満者の割合が増加しています。就寝時間が遅く朝食を欠食するなどの生活習慣の乱れや、よく噛むことを意識していないなどの原因が考えられます。

家族全体への適切な食事量、栄養バランス、よく噛んで食べることの重要性などの知識の普及、啓発を行っていきます。

○食育知立(ともだち)の会及び健康推進員については、地域住民に対し生涯を通じた食育推進、健康づくりの担い手としての活躍が期待されることから、活動を支援し地域における健康づくりの機会を拡大していきます。

(2) 身体活動・運動

■評価指標の目標値と現状値

評価指標	対象者	策定時 (H25年度)	目標値 (R6年度)	現状値 (R1年度)	判定
運動習慣者（1日30分以上の運動を週2回1年以上継続）の割合の増加	40～64歳	28.1%	36.0%	26.7% (H30年度)	D
ロコモティブシンドロームの意味を知っている人の割合の増加	20歳以上	28.3%	80.0%	34.8%	B
散歩みちウォーキングイベント参加者の増加	市民	122人	200人	151人	B
河川堤防沿いの散歩みち整備		2,768m	4,568m	4,032m (H30年度)	B
新規のスポーツ教室の増加	市民	1教室	5教室	1教室 (H30年度)	B
市民歩け歩き運動への参加者の増加	市民	1,500人	1,800人	1,500人 (H30年度)	C

○「運動習慣者の割合」は、減少しています。

○「ロコモティブシンドロームの意味を知っている人の割合」は増加しています。

■これまでの取り組み

◎ **身体活動や運動に関する正しい知識の情報提供をします** また市民が、運動習慣を持つよう周知・啓発を行います

- ・広報、ホームページ、福祉健康まつり、図書館での啓発、健康ボランティアウォーキングの開催、健康推進員活動での講座の開催（健康増進課）
- ・スポーツ推進委員だよりの発行（生涯学習スポーツ課）
- ・「やるっぴ！シニア元気塾」など健康講座、健康教育の実施（長寿介護課）
- ・「まちかど運動教室」など高齢者が運動できる場所づくりの提供（長寿介護課）
- ・ゲートボール教室など教室の開催（国保医療課）

◎ **運動づくりに関するボランティアや指導者の育成や支援を行います**

- ・スポーツに関する指導者教室の開催（生涯学習スポーツ課）
- ・健康ボランティアの支援（健康増進課）
- ・スポーツ推進委員西三河実技研修会への参加・総合型地域スポーツクラブへの補助事業等の実施（生涯学習スポーツ課）
- ・池鯉鮒散歩みち協議会主催によるわくわくウォーキングの実施（都市計画課）

◎ **運動施設の効果的な利用につながるような情報提供を行い市民の利用を促進します**

- ・学校体育館を半面貸しへ変更（生涯学習スポーツ課）

◎ **運動に関する講座・イベントがより魅力的で参加しやすい事業になるよう内容を見直します**

- ・スポーツに関する講座・教室の開催（生涯学習スポーツ課）
- ・市内ウォーキングマップの配付及びホームページによる啓発、健康知立ともだちマイレージの開始（健康増進課）

◎ **運動が習慣化されるよう、安全で歩きやすいコース作りや散歩みちの整備をします**

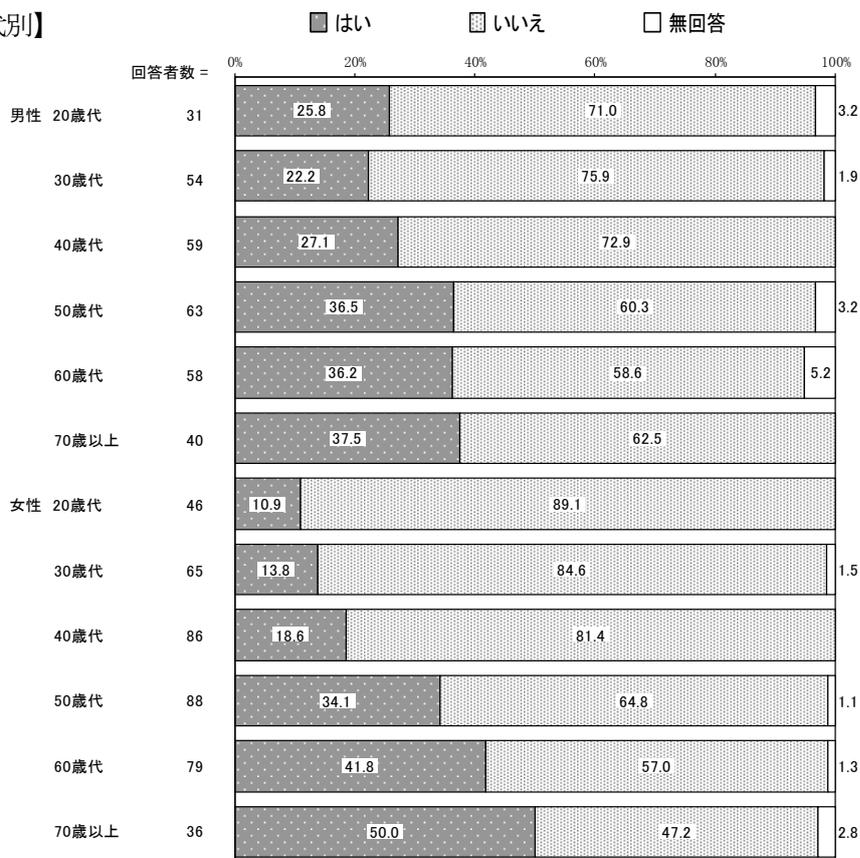
- ・散歩道の整備（都市計画課）

■市民アンケート結果

◇あなたは、1回30分以上かつ週2回以上の運動を1年以上続けていますか。

性年代別にみると、女性で年代が低くなるにつれ「いいえ」の割合が高くなる傾向がみられます。

【市民・性年代別】



■課題と今後の取り組み

- 「運動習慣者の割合」については、20～40歳代女性、30歳代男性の働く世代や子育て世代において運動習慣のない人の割合が高くなっています。若い頃からの運動の習慣化を図るため、スポーツイベントやウォーキングコースなどについて情報発信していきます。
- 労働、家事、通勤・通学など生活活動において、少しでも身体を動かすことの大切さを周知・啓発します。
- 関係部署・関係機関等と連携し、運動しやすい環境づくりや施設整備を行います。
- 運動習慣の定着化や健康づくりにおいて、健康知立ともだちマイレージを活用した取り組みを推進していきます。
- ロコモティブシンドロームは要介護状態となる大きな要因になるため、継続してロコモティブシンドロームに関する知識の普及、介護予防に取り組みます。

(3) 休養・こころの健康

■評価指標の目標値と現状値

評価指標	対象者	策定時 (H25年度)	目標値 (R6年度)	現状値 (R1年度)	判定
睡眠による休養を十分に取れている人の割合の増加	40～64歳	67.8%	83.0%	68.2% (H30年度)	C
ストレスを感じている人の割合の減少	20～74歳	21.8%	14.9%	21.6%	C
ゆったりとした気分で子どもと過ごせる人の割合の増加	3・4か月児健診	68.4%	74.6%	83.0% (H30年度)	A

- 「睡眠による休養を十分に取れている人の割合」、「ストレスを感じている人の割合」は横ばいとなっています。
- 「ゆったりとした気分で子どもと過ごせる人の割合」は増加し、目標を達成しています。

■これまでの取り組み

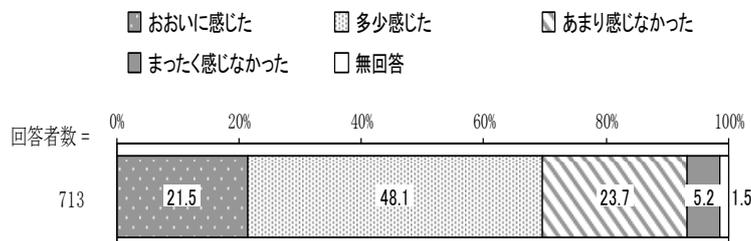
- ◎ 自分や周りの人のこころの不調に気づけるようこころの病気の特徴や対応方法等の知識を普及啓発します
 - ・こころの体温計の実施（健康増進課）
 - ・広報、市役所電光掲示板、福祉健康まつりでの啓発（健康増進課）
 - ・各町内会同士の交流、情報交換会の実施（生涯学習スポーツ課）
- ◎ 学校、園、家庭において、正しい生活習慣（睡眠時間の確保、携帯・メディアの適正利用等）やこころの健康につながる知識や情報を周知・啓発します
 - ・保健だよりにて情報の周知・啓発（学校教育課・子ども課）
 - ・学校保健会と連携し健康教育を実施（学校教育）
- ◎ ワーク・ライフ・バランスという概念の周知・啓発や、悩みや不安について相談しやすい相談窓口を設置する等社会環境の整備を行います
 - ・こころの健康相談、ゲートキーパー研修、健康推進員活動の実施（健康増進課）
 - ・女性悩みごと相談の実施（協働推進課）
 - ・こころの健康カフェ事業、健康講座の実施（福祉課）
 - ・子育てネットワークを活用した講座の開講（生涯学習スポーツ課）
- ◎ 育児不安を軽減させるため、訪問・相談体制の充実等、子育て支援サービス整備を図ります
 - ・にじいろニコニコ事業、産後ケア事業の周知・啓発、医療機関との連携（健康増進課）
 - ・支援センターによる育児相談・サークル・子育て情報の提供、基本型利用者支援事業の実施（子ども課）
 - ・臨床心理士による教育相談の定期的な実施（学校教育課）
- ◎ サロン事業等、地域が実施する高齢者のこころの健康につながる事業を支援します
 - ・高齢者サロンで食事会、お茶会を実施（長寿介護課）

■市民アンケート結果

◇あなたは、ここ1ヶ月間に精神的ストレスを感じましたか。

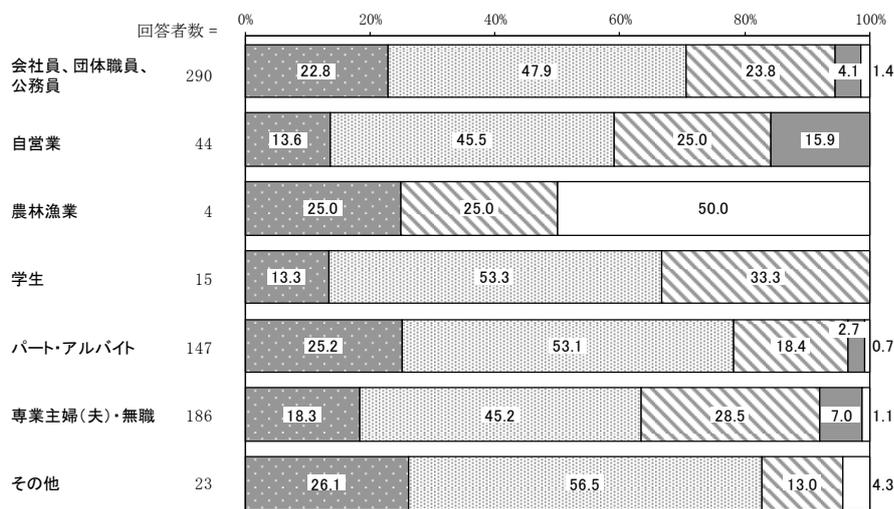
「おおいに感じた」と「多少感じた」を合わせた“感じた”の割合が69.6%、「あまり感じなかった」と「まったく感じなかった」を合わせた“感じなかった”の割合が28.9%となっています。

【市民】



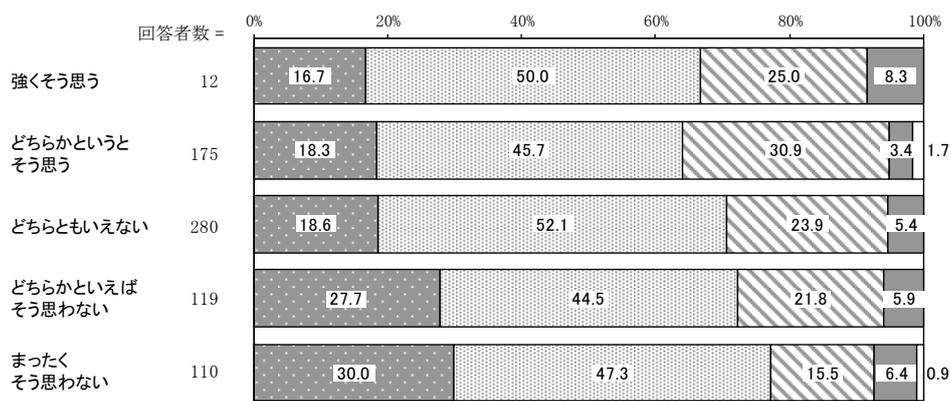
職業別でみると、他に比べ、「パート・アルバイト」に精神的ストレスを“感じた”の割合が高くなっています。

【市民・職業別】



「お住まいの地域でお互い助け合っていると感じますか」という問い別でみると、「まったくそう思わない」という方ほど、精神的ストレスを“感じた”の割合が高くなる傾向がみられます。

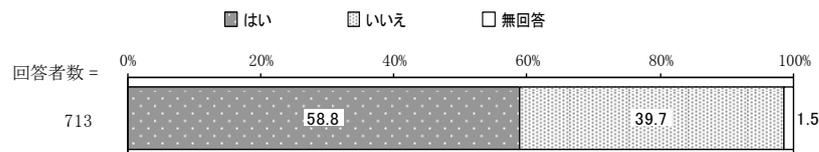
【お住まいの地域ではお互いに助け合っていますか別】



◇あなたは、ここ1ヶ月、睡眠で休養が十分に取れていますか。

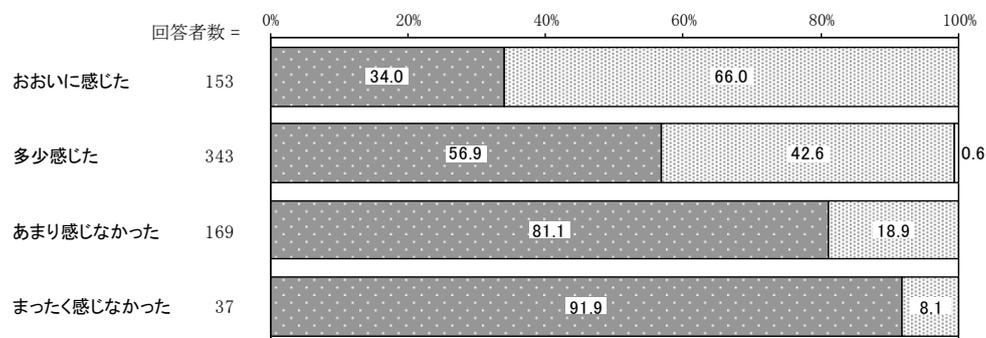
「はい」の割合が58.8%、「いいえ」の割合が39.7%となっています。

【市民】



精神的ストレス別でみると、ストレスが強くなるにつれ、睡眠で休養が十分に取れている割合が低くなっています。

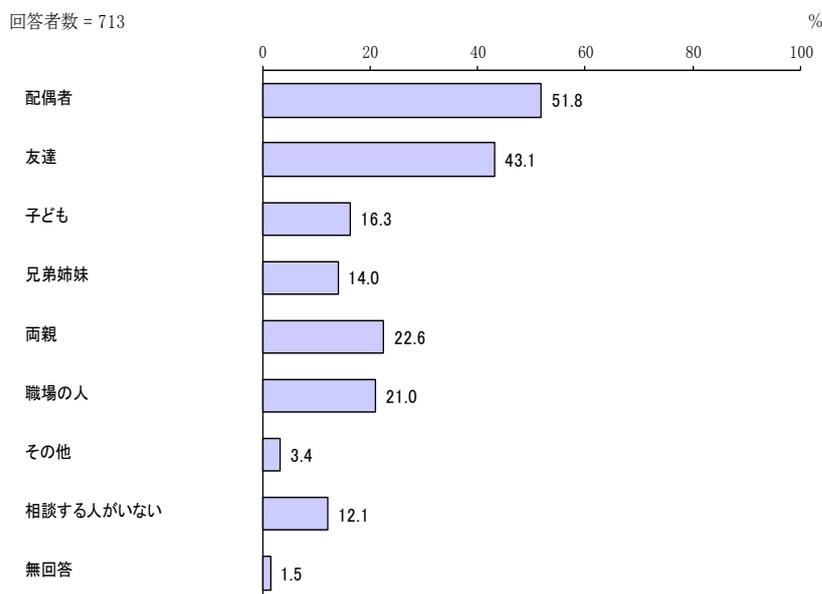
【市民・精神的ストレス別】



◇あなたは、悩んだり精神的ストレスを抱えたときに、相談できる人がいますか。(複数回答)

「配偶者」の割合が51.8%と最も高く、「相談する人がいない」の割合が12.1%になります。

【市民】



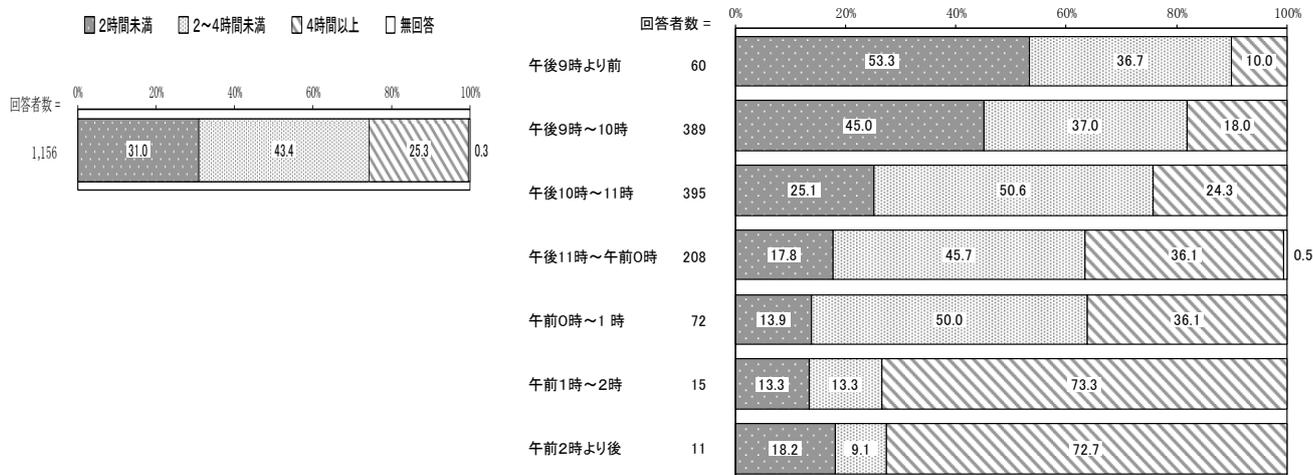
◇テレビ・スマホ・タブレット・PC・DVDなどを1日どのくらい見えていますか。

「2～4時間未満」の割合が43.4%と最も高いです。

就寝時間別にみると、就寝時間が遅くなるほど「4時間以上」の割合が高くなる傾向がみられます。

【小中学生】

【小中学生・就寝時間別】



■ 課題と今後の取り組み

- 精神的ストレスを「おおいに感じた」「多少感じた」方は、約7割になります。相談できる人の存在やストレス解消方法があることは、ストレスの軽減につながります。同じ趣味や嗜好での人とのつながりを含めた、志縁に基づく居場所づくりを推進していきます。
- 職業別でみると会社員、団体職員、公務員、パート・アルバイトに精神的ストレスを感じた割合が約7割を超えています。地元企業に、メンタルヘルス教育の重要性を周知するとともに、相談しやすい環境づくりについて取り組みます。
- 「お住まいの地域でお互い助け合っていると感じますか」という問いに関しては「まったくそう思わない」という方に「精神的ストレスを感じた」の割合が高くなる傾向です。地域交流を通して生きがいを獲得することは、心身の健康の保持増進につながります。地域の人たちとの交流を深めるための場の提供や、情報を提供します。
- 十分な睡眠がとれていない人とストレスを感じている人には相関関係があります。休養はこころの健康を保つためにとっても重要です。睡眠の知識、自分に合ったストレス解消法について周知・啓発を行います。
- 悩んだり、ストレスを抱えたときに1人で抱え込まず支援を求めることができるよう、各種相談窓口と利用方法普及のため、SNSを活用した周知や学校保健・関係機関等と連携し情報提供を行うとともに相談しやすい環境づくりに取り組みます。
- 適切な生活習慣の定着のため、知識の普及啓発、相談を行います。また、メディア（テレビ・スマホ・ゲーム）の適正利用についても普及啓発します。
- ゆったりとした気分で子どもと過ごせる人の割合は増加しています。継続して妊娠期からの切れ目ない相談・支援体制の充実を図っていきます。

(4) 喫煙・飲酒

■評価指標の目標値と現状値

評価指標	対象者	策定時 (H25年度)	目標値 (R6年度)	現状値 (R1年度)	判定
喫煙者の割合の減少	妊娠中	3.7%	0.0%	2.1% (H30年度)	B
	40～74歳	13.2%	7.9%	14.2% (H30年度)	D
COPD(慢性閉塞性肺疾患)という疾患を知っている人の割合の増加	20～74歳	55.7%	80.0%	48.9%	D
受動喫煙防止対策認定施設の増加		126施設	205施設	138施設	B
生活習慣病のリスクを高める量を毎日飲酒している者の割合の減少(純アルコール摂取量が男性40g以上、女性20g以上)	40～74歳 男性	9.4%	8.0%	8.9% (H30年度)	B
	40～74歳 女性	3.2%	2.7%	3.8% (H30年度)	D

- 「喫煙者の割合」は40～74歳の方は増加していますが、妊娠中の方は減少しています。
- 「COPDという疾患を知っている人の割合」は減少しています。
- 「生活習慣病のリスクを高める量を毎日飲酒している者の割合」では、男性は減少していますが女性も増加しています。

■これまでの取り組み

- ◎ **喫煙が及ぼす影響について正しい知識を周知・啓発します**
 - ・ 広報、パンフレット、福祉健康まつり等による啓発(健康増進課)
 - ・ 妊婦家庭の喫煙防止のため、母子手帳交付時にリーフレットの配布やパパママクラスでの講話の実施(健康増進課)
 - ・ 喫煙者に個別指導・禁煙相談の実施(健康増進課)
 - ・ 園だより、食育だよりによる啓発(子ども課)
- ◎ **禁煙支援体制の整備に努めます**
 - ・ 禁煙外来や相談窓口等の周知(健康増進課)
- ◎ **公共施設の受動喫煙防止対策認定施設の登録を増加させます**
 - ・ 広報による啓発(健康増進課)
- ◎ **未成年者の喫煙防止を徹底するため、保育園や小中学校などで教育・啓発します**
 - ・ 体育科、保健体育科の授業や特別活動を通して学習を実施(学校教育課)
 - ・ 園だよりによる啓発(子ども課)
- ◎ **飲酒が健康に及ぼす影響について、正しい知識を周知・啓発します**
 - ・ 広報、パンフレット、健康まつり等による啓発(健康増進課)
- ◎ **飲酒に起因する諸問題を抱える本人や家族に対して相談体制の充実を図ります**
 - ・ 病院や保健所等、各関係機関と連携した支援の実施(福祉課)
 - ・ 広報、パンフレット、健康まつり等による啓発(健康増進課)

■ 課題と今後の取り組み

- 40～74歳の喫煙率は増加しています。喫煙は、がん、循環器疾患、糖尿病、COPD等の生活習慣病の原因であることを周知する必要があります。たばこが健康に及ぼす影響の啓発と禁煙支援を行います。
- 「妊娠中の喫煙者の割合」は、愛知県と比較して低い割合ですが、低出生体重、胎児発育遅延や早産の原因のひとつになるといわれています。継続して喫煙が母体や胎児に与える影響の正しい知識の普及に努めるとともに、不安やストレスが喫煙の一因となっていることもあるため、それらを含めた対応を行います。
- 健康増進法の改正による受動喫煙防止対策について関係機関と連携し、推進していきます。
- 「生活習慣病のリスクを高める量を毎日飲酒している者の割合」は女性で増加しています。適正飲酒の重要性について周知・啓発します。
- 飲酒による問題を抱える本人や家族に対し、会議等の開催を含め保健所や病院等と連携を図り、個別支援の充実を図ります。また、アルコール専門相談や断酒会などの相談窓口について周知・啓発します。

(5) 歯・口腔の健康

■評価指標の目標値と現状値

評価指標	対象者	策定時 (H25年度)	目標値 (R6年度)	現状値 (R1年度)	判定
むし歯のない幼児・児童・生徒の割合の増加	3歳児	88.9%	95.0%	90.7% (H30年度)	B
	園児	61.1%	64.1%	67.6%	A
	児童	52.8%	55.0%	68.0%	A
	生徒	55.8%	60.0%	71.6%	A
保護者による仕上げ磨きがされている幼児の割合の増加	1.6歳児	74.4%	90.0%	73.0% (H30年度)	C
	園児	69.5%	84.5%	77.7%	B
歯科健診受診者の割合の増加	40歳	4.1%	6.9%	7.8% (H30年度)	A

- 「むし歯のない者の割合」は、3歳児・園児・児童・生徒ともに増加しています。園児・児童・生徒は目標を達成しています。
- 「保護者による仕上げ磨きがされている幼児の割合」は1.6歳児では横ばいとなっていますが、園児では増加しています。
- 「歯科健診受診者の割合」は増加し、目標を達成しています。

■これまでの取り組み

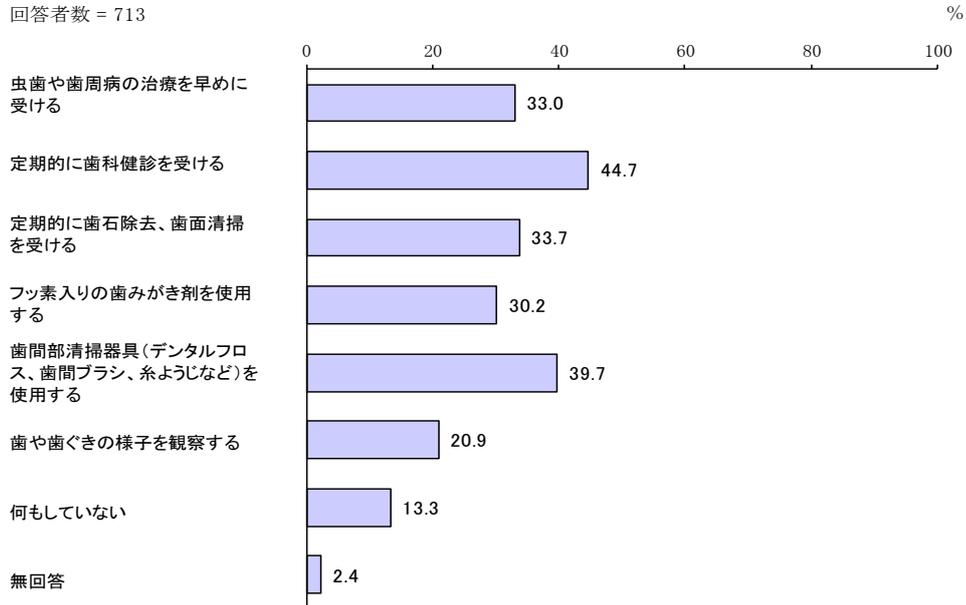
- ◎ 各年代について、歯及び歯周疾患の知識を周知・啓発します
 - ・ 広報による啓発（健康増進課）
 - ・ 各教室において歯科健康教育の実施（健康増進課）
 - ・ 福祉健康まつりにて健康教育、健康相談を実施（健康増進課）
 - ・ フッ化物塗布事業の実施（健康増進課）
 - ・ 健康推進員活動における講座の実施（健康増進課）
 - ・ 保健師だよりにて啓発（子ども課）
 - ・ 養護教諭による歯の健康についての保健指導を実施（学校教育課）
 - ・ 「やるっぴ！シニア元気塾」の実施（長寿介護課）
- ◎ 若年層から定期的な歯科健診を受けられるよう体制を整え、受診勧奨します
 - ・ 成人歯科検診、8020・9020 歯科健診の実施（健康増進課）
 - ・ 妊産婦歯科健診の実施（健康増進課）
- ◎ 歯・口腔内の清潔が保たれるような環境づくりに取り組みます
 - ・ 保健師だよりにて啓発（子ども課）
 - ・ 小学校でフッ化物洗口や給食後の歯磨き指導の実施（学校教育課）
- ◎ 8020 運動を推進します
 - ・ 8020 表彰式・9020 表彰式の実施（健康増進課）

■ 市民アンケート結果

◇ 歯の健康管理としてどのようなことをしていますか。(複数回答)

「定期的に歯科健診を受ける」の割合が44.7%と最も高く、「何もしていない」の割合は13.3%です。

【市民】



よくかんでいて「定期的に歯科健診を受ける」「歯間部清掃器具(デンタルフロス、歯間ブラシ、糸ようじなど)を使用する」の割合が高くなっています。

【市民・よくかんで食べるようにしていますか別】

区分	有効回答数(件)	虫歯や歯周病の治療を早めに受ける	定期的に歯科健診を受ける	定期的に歯石除去、歯面清掃を受ける	フッ素入りの歯みがき剤を使用する	歯間部清掃器具(デンタルフロス、歯間ブラシ、糸ようじなど)を使用する	歯や歯ぐきの様子を観察する	何もしていない	無回答
よくかんでいる	237	37.6	44.7	34.6	33.8	43.9	25.7	11.0	3.0
あまりかんでいない	330	33.3	42.4	30.9	29.7	35.5	18.5	15.8	1.8
わからない	137	24.8	49.6	38.7	24.8	42.3	18.2	12.4	1.5

■ 課題と今後の取り組み

- むし歯のない幼児・児童・生徒は改善しています。保育園や学校等関係機関と連携し、継続して正しい歯磨き習慣の定着、仕上げ磨きの効果について周知・啓発します。
- 歯科健診受診者の割合は目標を達成していますが、歯の健康管理では「何もしていない」方が約1割います。継続して、定期的に歯科健診を受けることの重要性を周知・啓発します。
- 口腔の健康は、全身の健康にも大きく影響するため、8020運動、9020運動を推進するとともに、医療機関、介護部門と連携し、適切な口腔ケア方法などについて周知・啓発を図ります。

2 疾病の発症予防と重症化予防を徹底します

(1) がん

■評価指標の目標値と現状値

評価指標	対象者	策定時 (H25年度)	目標値 (R6年度)	現状値 (R1年度)	判定
がん検診受診率の増加					
・胃がん	40歳以上	7.7%	40.0%	6.5% (H30年度)	C
・大腸がん	40歳以上	15.4%	40.0%	19.6% (H30年度)	B
・肺がん	40歳以上	7.2%	40.0%	18.5% (H30年度)	B
・乳がん	40歳以上	17.2%	50.0%	18.7% (H30年度)	C
・子宮がん	20歳以上	28.8%	50.0%	23.8% (H30年度)	D

○「大腸がん検診」の受診率は増加、「胃がん検診」「乳がん検診」の受診率は横ばい、「子宮がん検診」の受診率は減少しています。

(2) 循環器疾患・糖尿病

■評価指標の目標値と現状値

評価指標	対象者	策定 (H25年度)	目標値 (R6年度)	現状値 (R1年度)	判定
知立市特定健診受診率の増加	40～74歳	38.3%	60.0%	42.1% (H30年度)	B
知立市特定保健指導実施率の増加	40～74歳	17.8%	60.0%	13.4% (H30年度)	D
脂質異常症の減少 中性脂肪150mg/dl以上の者の割合の減少	(40～74歳、服薬者含む) 男性	26.2%	19.7%	26.0% (H30年度)	C
	(40～74歳、服薬者含む) 女性	15.1%	11.3%	16.1% (H30年度)	D
脂質異常症の減少 LDL コレステロール160mg/dl以上の者の割合の減少	(40～74歳、服薬者含む) 男性	10.2%	7.7%	10.8% (H30年度)	D
	(40～74歳、服薬者含む) 女性	19.4%	14.6%	18.6% (H30年度)	B
高血圧の改善 I度高血圧以上(最高血圧140以上または最低血圧90以上)の者の割合の減少	(40～74歳、服薬者含む) 男性	28.2%	21.2%	27.7% (H30年度)	C
	(40～74歳、服薬者含む) 女性	26.9%	20.2%	26.3% (H30年度)	C
メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の割合の減少	40～74歳	28.8%	21.6%	31.8% (H30年度)	D
糖尿病有病率の減少	40～74歳	11.3%	8.8%	11.5% (H30年度)	C

- 「特定健診受診率」は増加していますが、「特定保健指導実施率」の割合は減少しています。
- 「脂質異常症の減少」では中性脂肪 150 mg/dl 以上者の割合では男性は横ばいですが、女性は増加しています。また、LDL コレステロール 160 mg/dl 以上の者の割合では男性が増加し、女性は減少しています。
- 「高血圧の改善」では、I 度高血圧以上の者は、男女共に横ばいとなっています。
- 「メタボリックシンドロームの該当者及び予備軍の割合」は増加しています。
- 「糖尿病有病率の減少」は横ばいとなっています。

■これまでの取り組み

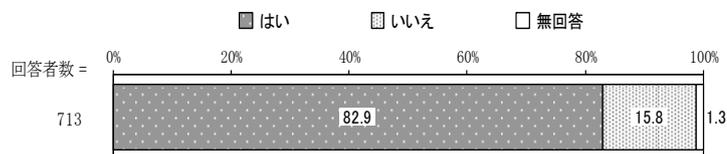
- ◎ **各種健康教育事業や健康講座を通じて、疾病についての知識や疾病予防に重要な生活習慣についての知識を周知・啓発します**
 - ・福祉健康まつりにて体脂肪測定や脳年齢など健康測定の実施（国保医療課）
 - ・特定保健指導の実施（健康増進課）
 - ・健診結果相談の実施（健康増進課）
 - ・医師健康講座の実施（健康増進課）
 - ・広報・ホームページによる啓発（健康増進課）
 - ・子どもを持つ保護者へのがん検診の PR の実施（健康増進課）
 - ・体育科、保健体育科の授業や特別活動を通して学習を実施（学校教育課）
- ◎ **職域と連携し、健診（検診）受診勧奨や、健康講座を通じた疾病予防の正しい知識を普及します**
 - ・ポスター掲示による啓発やリーフレットの配布（国保医療課）
 - ・商工会や協会けんぽ等と連携した健康講座の実施（健康増進課）
 - ・労働基準協会会報誌に健康に関する記事の掲載（健康増進課）
- ◎ **健診（検診）未受診者に対しては受診勧奨をすることにより、疾病の重症化を防ぎます**
 - ・未受診者へ個別通知・電話勧奨（健康増進課・国保医療課）
 - ・特定健診において高血糖・高血圧の未治療者へ個別通知・電話勧奨（健康増進課）
 - ・がん検診精密検査未受診者へ個別勧奨（健康増進課）
- ◎ **多様なデータから市民の健康管理に必要な方法を検討します**
 - ・データヘルス計画に基づいた保健事業の実施、医療費や健診結果の分析（健康増進課・国保医療課）
 - ・大腸がん検診受診率向上事業（特定健診発送時に大腸がんキットを同時送付）の実施（健康増進課）
- ◎ **ウェブ予約等、健診（検診）の実施方法を工夫し、若年層が受診しやすい環境を整備します**
 - ・特定健診対象者に受診票の配布、40 歳代への電話勧奨（国保医療課）
 - ・ホームページによる啓発（健康増進課）
- ◎ **健診（検診）内容や対象者などを検討し、受診者にとって魅力のある健診（検診）環境を整備します**
 - ・一般健診とがん検診を複合させたミニドックの実施（国保医療課・健康増進課）
 - ・各種がん検診を個別・集団にて実施（健康増進課）
- ◎ **健診（検診）案内等には外国語版を用意するなど、外国籍の人も受診しやすい環境を整えます**
 - ・ポルトガル語版の案内通知や記入見本の作成（健康増進課）
- ◎ **糖尿病重症化予防プログラムとして、有病者に対し食事や運動等の保健指導を行います**
 - ・糖尿病重症化予防プログラムの実施（国保医療課）

■市民アンケート結果

◇あなたは、過去1年間に健康診断を受けましたか

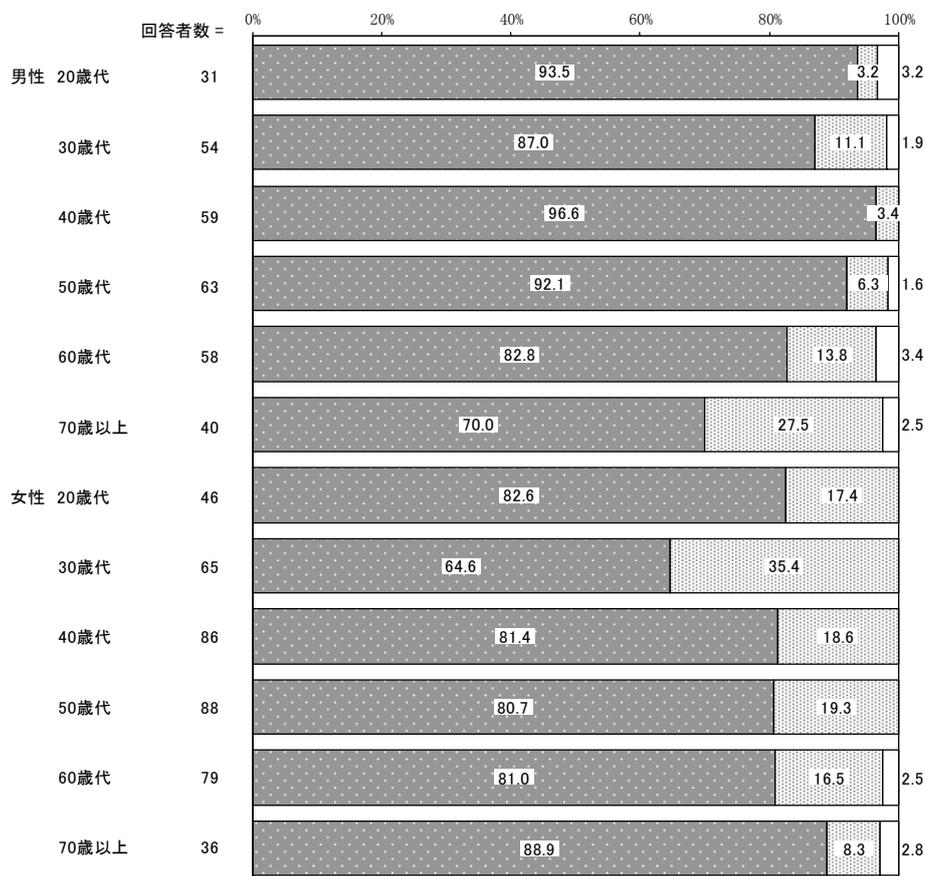
「はい」の割合が82.9%、「いいえ」の割合が15.8%となっています。

【市民】



性年代別にみると、他に比べ、男性の20歳代、40歳代、50歳代で「はい」の割合が高くなっています。また、女性の30歳代で「いいえ」の割合が高くなっています。

【市民・性年代別】

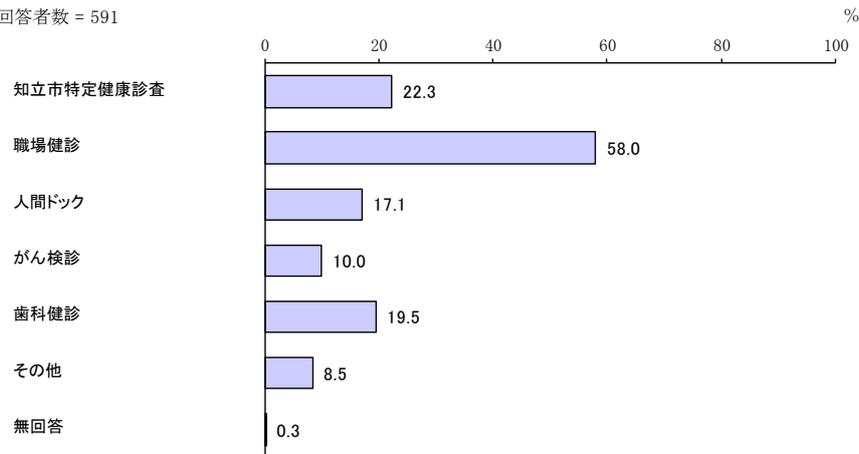


◇受けている健診は何ですか（複数回答）

「職場健診」の割合が58.0%と最も高くなっています。

【市民】

回答者数 = 591

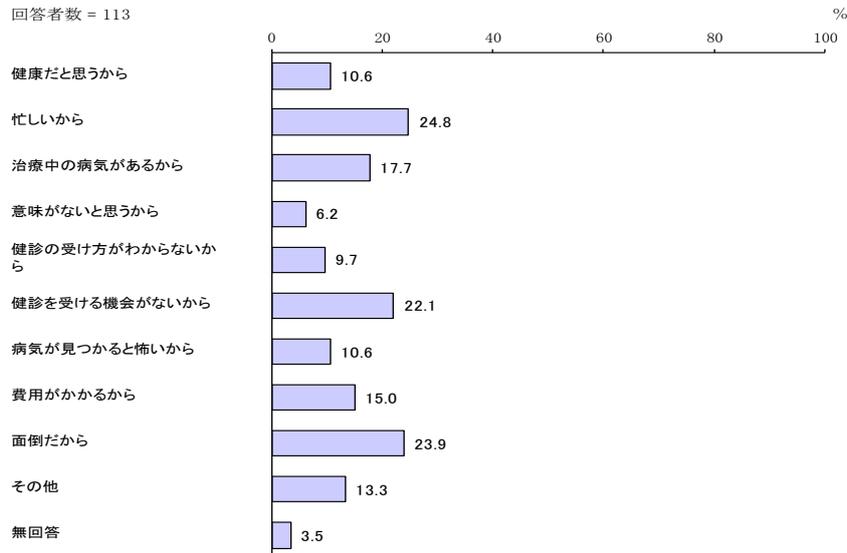


◇健康診断を受けない理由は何ですか。（複数回答）

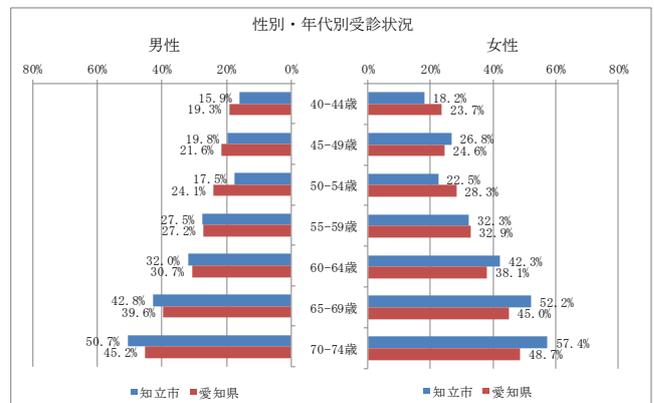
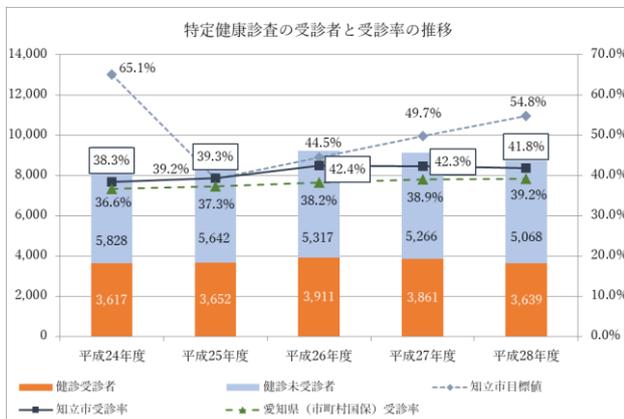
「忙しいから」の割合が24.8%と最も高く、次いで「面倒だから」の割合が23.9%、「健診を受ける機会がないから」の割合が22.1%となっています。

【市民】

回答者数 = 113

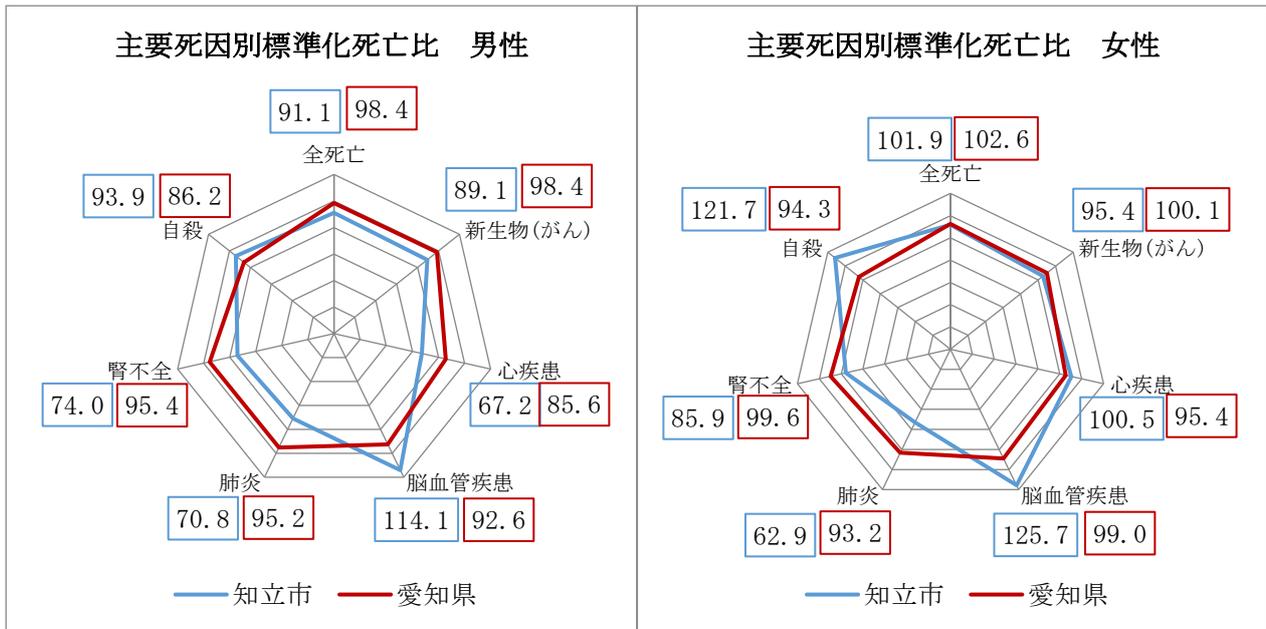


■第2期知立市国民健康保険データヘルス計画より



資料：法定報告「特定健診・特定保健指導実施結果報告」（平成24～28年度）

資料：KDB「健診の状況」及び「健診・医療・介護データから見る地域の健康課題（平成28年度）



標準化死亡比 (ベイズ推定値) 対象地域において「全国の年齢階級別死亡率で死亡するとしたときの期待死亡数」に対する「実際の死亡数」の比を100倍して算出したもの、標準化死亡比が100より大きい場合、全国平均より高いと判断される。

資料：愛知県衛生研究所「平成23-27年市町村別死因別男女別標準化死亡比及び主要部位ベイズ推定値」

■課題と今後の取り組み

- 「大腸がん検診」「乳がん検診」「肺がん検診」受診率は増加していますが、いずれも目標値には達成していない状況です。また、「胃がん検診」「子宮がん検診」受診率は減少しています。がんの発症を予防するため、生活習慣改善の重要性について周知・啓発するとともに、受診機会の周知を行っていきます。
- 各種がん検診の受診率の向上を図るため、がん検診の必要性について周知・啓発すると共に、ウェブ予約、土日祝日のがん検診の開催、検診場所の拡大等、受診しやすい体制づくりに努めます。
- 30歳代女性に健診を受けていない割合が高いです。若年層の受診率向上に向け、健診受診の必要性の周知や、インセンティブ、受診しやすい健診の実施に取り組みます。
- 特定健診受診率・特定保健指導実施率向上のため、医療機関と連携し、受診勧奨を行うとともに、効果的な勧奨資材や方法（ウェブ予約など）を検討します。
- 糖尿病有病率は横ばいですが、特定健診受診者で糖尿病の医療機関受診勧奨レベルの数値に該当する人において約半数の人が治療していない状況です。重症化予防のため、健診後の未治療者に対し医療機関受診勧奨をします。
- 主要死因別標準化死亡比をみると男性、女性ともに脳血管疾患で死亡する割合が全国や愛知県に比べて極めて高い状況です。高血圧重症化予防のため、健診後の未治療者に対し医療機関受診勧奨をします。
- 職場健診を受診している割合が高いことから、地元企業とも連携できるような体制づくりを検討、実施していきます。

3 社会で支える健康づくりを推進します

■評価指標の目標値と現状値

評価指標	対象者	策定時 (H25年度)	目標値 (R6年度)	現状値 (R1年度)	判定
食生活改善推進員の増加 (現：食育知立(ともだち)の 会会員の増加)	市民	35人	40人	28人	D
健康ボランティアの増加	市民	39人	60人	37人	D
健康推進活動に参加する人の 増加	市民	2,500人	3,000人	1981人 (H30年度)	D
地域でお互いに助け合っていると 考えている人の割合の増加	20～74歳	23.8%	31.7%	26.0%	B
過去1年間にボランティア活動に 参加した人の割合の増加	20～74歳	18.9%	30.0%	18.9%	C
生涯学習地域推進講座の参加者 数の増加	市民	12,707人	14,000人	18,193人 (H30年度)	A

- 「食生活改善推進員」は、平成29年度より食育知立(ともだち)の会に名称変更しました。会員数は減少しています。
- 「健康ボランティア」「健康推進活動に参加する人」は減少しています。
- 「地域でお互いに助け合っていると考えている人の割合」は増加しています。
- 「過去1年間にボランティア活動に参加した人の割合」は横ばいとなっています。
- 「生涯学習地域推進講座の参加者数」は目標値を達成しています。

■これまでの取り組み

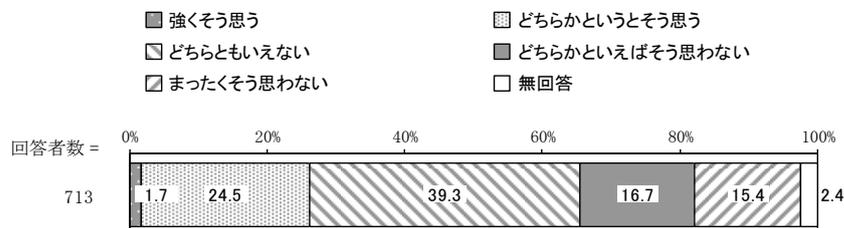
- ◎ 地域の健康づくりの担い手になる人材の育成、支援を行います
 - ・健康推進員養成講座の実施(健康増進課)
 - ・食育知立(ともだち)の会会員の養成、勉強会の実施(健康増進課)
 - ・健康ボランティアの支援(健康増進課)
- ◎ 行政と市民、地元企業・商店等が連携し、地域全体で健康づくりを推進する仕組みを作ります
 - ・健康知立ともだちマイレージ事業の実施(健康増進課)
 - ・保健所と協働で、地元企業に訪問し情報交換や、出張講座を実施(健康増進課)
- ◎ 地域活動の情報が市民全員に行きわたり、参加できるような仕組みづくりを推進します
 - ・老人クラブ等に対して費用一部の補助(長寿介護課)
 - ・衣浦定住自立圏市民活動情報サイト「かりや衣浦つながるねット」への地域活動イベントの掲載。
「つながるねット&ボランティアセンター」でのイベント開催(協働推進課)
 - ・食育知立(ともだち)の会や健康ボランティアの活動内容を広報やホームページに掲載、福祉健康まつりにて紹介(健康増進課)
- ◎ 町内会の主な行事を発信します
 - ・町内会の文化祭情報の広報への掲載(協働推進課)

■市民アンケートより

◇あなたのお住まいの地域ではお互いに助け合っていますか

「強くそう思う」と「どちらかというと思う」を合わせた“そう思う”の割合が26.2%、「どちらかといえばそう思わない」と「まったくそう思わない」を合わせた“そう思わない”の割合が32.1%となっています。

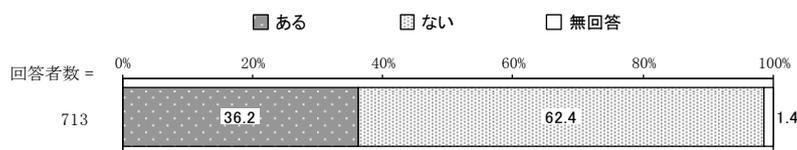
【市民】



◇あなたは、過去1年間に何らかの地域活動（老人クラブ、町内会活動、地域イベントなど）に参加したことがありますか。

「ある」の割合が36.2%、「ない」の割合が62.4%となっています。

【市民】



■課題と今後の取り組み

○過去1年間に何らかの地域活動に参加したことがある人の割合は6割を超えています。

住民相互のつながりの強い地域に住んでいる人ほど健康感が高いと言われていることから、若いころから地域活動に参加しやすいよう、情報発信や環境づくりをしていきます。

○知立マイレージ事業を通して、地域活動の情報が市民に行きわたり、参加できるよう、地元企業や商店等とも連携していきます。

○食育知立（ともだち）の会の会員数、健康ボランティア数、健康推進員活動に参加する人が減少しています。食育知立（ともだち）の会や健康ボランティアの活動をPRし、会員数の増加に努め、ボランティア活動を育成・支援していきます。



第4章

第2次知立市食育推進計画の評価及び見直し

1 食育で心を育もう

■評価指標の目標値と現状値

評価指標	対象者	策定時 (H25年度)	目標値 (R6年度)	現状値 (R1年度)	判定
食育に関心を持っている人の割合	市民	75.2%	90.0%	69.7%	D
食育を実践している人の割合	市民	50.2%	90.0%	47.5%	C
家での食事を楽しいと感じる人の割合	小学校 (5年生)	89.3%	90.0%	87.4%	D
	中学校 (2年生)	76.6%	80.0%	84.4%	A
市民農園の整備区画数		101区画	110区画	101区画	C

- 「食育に関心を持っている人の割合」は減少しています。
- 「食育を実践している人の割合」は横ばいとなっています。
- 「家での食事を楽しいと感じる人の割合」は、小学校では減少していますが、中学校では増加しています。
- 「市民農園の整備区画数」は横ばいとなっています。

■これまでの取り組み

◎ 家族や仲間と食を楽しもう

- ・食育だより、園だより等による啓発（子ども課・教育庶務課・学校教育課）
- ・「食育月間」「食育の日」にあわせ、ホームページ、庁内放送、電光掲示板等による啓発（健康増進課・経済課）
- ・高齢者サロンでの食事会や市民講座、料理教室の実施（長寿介護課・健康増進課・経済課・生涯学習スポーツ課）
- ・給食や教室・講座において行事食・伝統食の実施（子ども課・経済課・教育庶務課・学校教育課・生涯学習スポーツ課）
- ・各種団体・学校・園での食を通じた交流会の実施（協働推進課・子ども課・健康増進課・教育庶務課・学校教育課）

◎ 食べ物を大切に、食への感謝の気持ちを育もう

- ・「いただきます」「ごちそうさま」というあいさつの実施（子ども課・教育庶務課・学校教育課・健康増進課）
- ・凶書や歌、食まるファイブを用いた活用や啓発（子ども課・学校教育課・健康増進課・文化課）

◎ 体験や交流を通して「食」への関心を高めよう

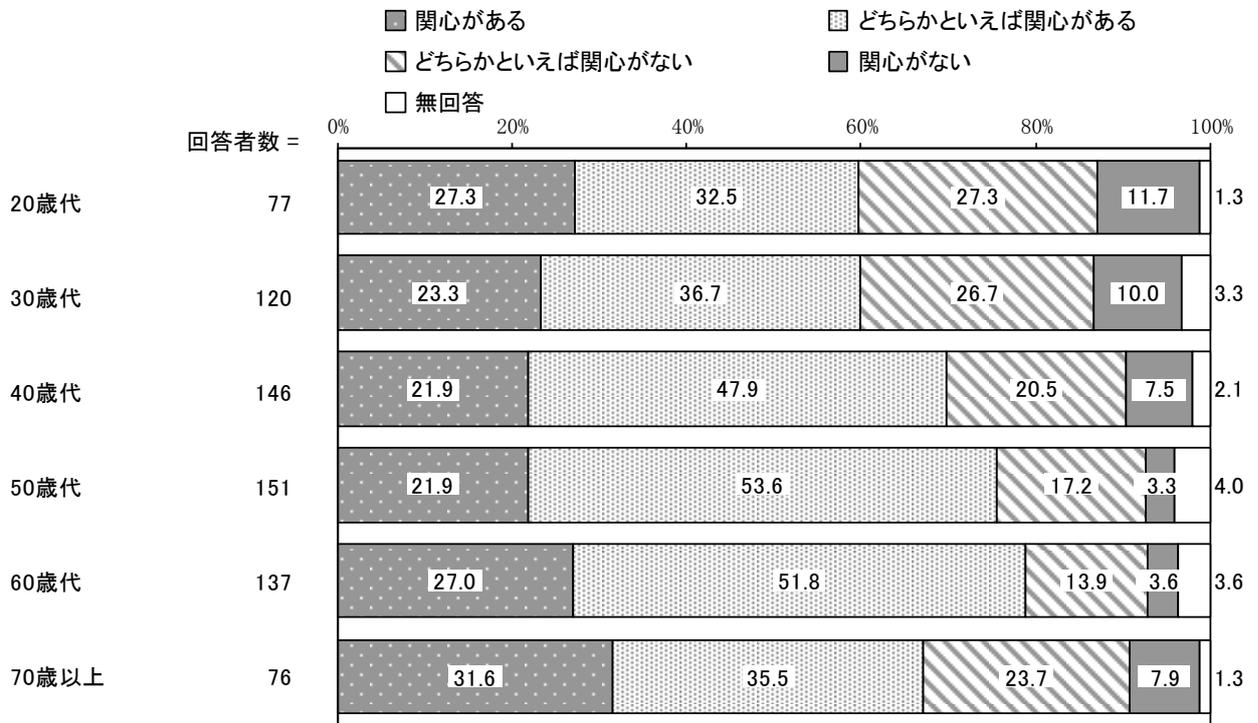
- ・ 地域・学校・園での栽培体験や収穫体験（子ども課・学校教育課）
- ・ 農業体験の支援（経済課）
- ・ 調理実習や料理教室・市民講座等の実施（子ども課・健康増進課・経済課・学校教育課・生涯学習スポーツ課）

■ 市民アンケート結果

◇あなたは、「食育」に関心がありますか

年代別にみると若い人ほど「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた“関心を持っている”の割合が低くなる傾向がみられます。

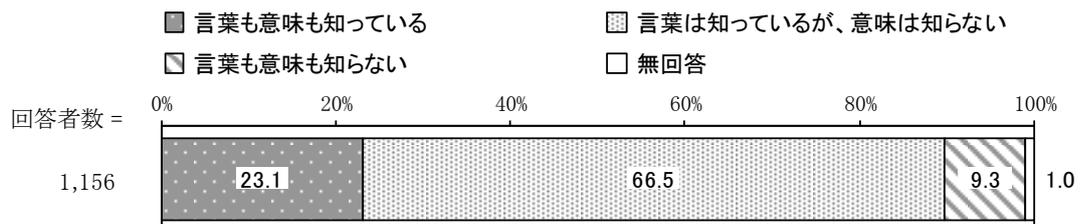
【市民・年代別】



◇あなたは、「食育」という言葉やその意味を知っていますか

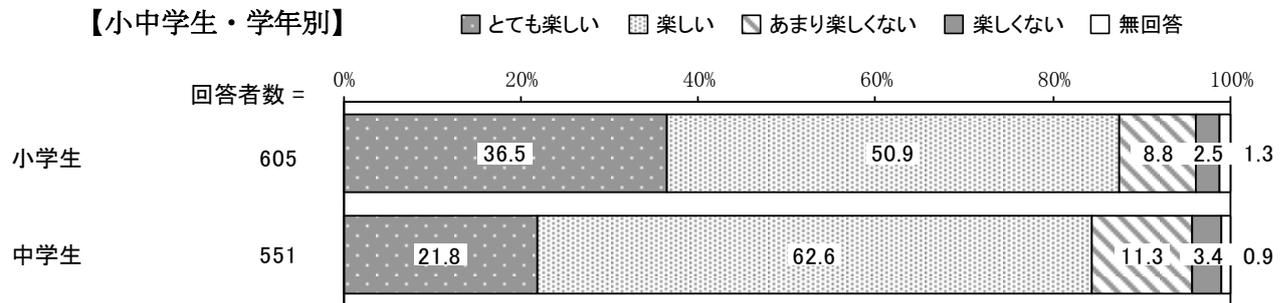
「言葉は知っているが、意味は知らない」の割合が66.5%と最も高くなっています。

【小・中学生】

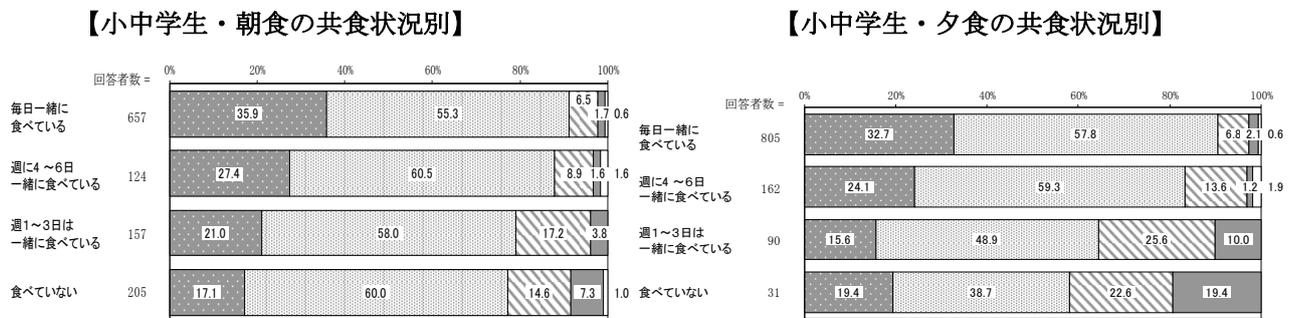


◇あなたは、家での食事の時間は楽しいですか

学年別にみると中学生に比べ、小学生で「とても楽しい」と「楽しい」を合わせた“楽しい”の割合が高くなっています。



朝食・夕食の※共食状況別でみると朝食・夕食とも共食の頻度が高くなるにつれ「楽しい」の割合が高くなっています。



※共食とは、家族や友人などと一緒に食事を楽しむこと

■課題と今後の取り組み

○食育に関心を持っている人の割合は減少しており、若い人ほどその割合は低くなる傾向にあります。食育を広く推進し、子どもの頃から食に関する正しい理解や望ましい習慣を身につけるため、引き続き保育園や学校をとおして食育だより・園だよりをはじめ様々な機会や方法で情報提供し、子どもを通じて家庭にも周知・実践につなげていくきっかけをつくります。

また、青年期以降の若い世代を中心に、職場における健康講座やパパママ教室・乳幼児健診等で、食の知識や食の大切さに関する情報提供も行っていきます。

○共食の頻度が高くなるにつれ、食事の時間が楽しいと感じる割合が高くなっています。家族や仲間と会話をしながら楽しく食べることは豊かな心を育みます。子どもから高齢者まで交流の大切さや共食の機会の重要性をPRし、市民講座の開催や高齢者サロンへの支援等の取り組みを実施していきます。

○行事食・伝統食は地域ならではの食文化です。地域への理解や愛着・世代を超えたコミュニケーションの機会となるよう、料理教室・市民講座等行政及び各種団体の活動状況を周知・啓発を行います。

○農作物の栽培体験を通じて食への関心が高められるよう、学校・保育園において栽培体験や収穫体験を実施し、地域への支援をしていきます。

2 食育でからだを育もう

■評価指標の目標値と現状値

評価指標	対象者	策定時 (H25年度)	目標値 (R6年度)	現状値 (R1年度)	判定
朝食を欠食する人の割合	園児	3.9%	0.0%	5.8%	D
	小学校 (5年生)	3.9%	0.0%	6.8%	D
	中学校 (2年生)	7.0%	3.0%	7.8%	D
	20代	23.0%	15.0%	18.2%	B
朝食に野菜を食べている人の割合	園児	28.7%	80.0%	24.6%	C
	小学校 (5年生)	36.1%	80.0%	38.3%	C
	中学校 (2年生)	30.1%	80.0%	38.8%	B
	市民	34.7%	80.0%	31.8%	C
よく噛んで食べる人の割合	小学校 (5年生)	52.9%	70.0%	58.3%	B
	中学校 (2年生)	33.6%	70.0%	55.5%	B
	市民	35.3%	70.0%	33.2%	C

- 「朝食を欠食する人の割合」は、園児・小学校・中学校では増加し、20代は減少しています。
- 「朝食に野菜を食べている割合」は、園児・小学校・市民では横ばいとなっていますが中学校では増加しています。
- 「よく噛んで食べている人の割合」は市民で減少していますが、小学校・中学校では増加しています。

■これまでの取り組み

◎ 正しい食習慣を身につけよう

- ・食育だより・園だより・福祉健康まつりで生活習慣病予防等の啓発（子ども課・教育庶務課・学校教育課・長寿介護課・健康増進課）
- ・早寝・早起き・朝ごはんの推進（子ども課・学校教育課）
- ・健康教育（パパママクラス・乳幼児健診）・調理実習・市民講座での支援や啓発（健康増進課・生涯学習スポーツ課）

◎ 食事から健康づくりに取り組もう

- ・重症化予防プログラムの実施（国保医療課）
- ・特定保健指導の実施（健康増進課）
- ・健診結果での個別健康相談の実施（子ども課・学校教育課）
- ・離乳食講習・育児相談において歯科健康教育・相談の実施（健康増進課）
- ・フッ化物塗布事業の実施（健康増進課）
- ・8020・9020 表彰の協力と実施（健康増進課）
- ・小学校や保育園におけるフッ化物洗口や歯磨き指導の実施（学校教育課・子ども課）
- ・「やるっぴ！シニア元気塾」における歯や口腔の健康づくり（長寿介護課）

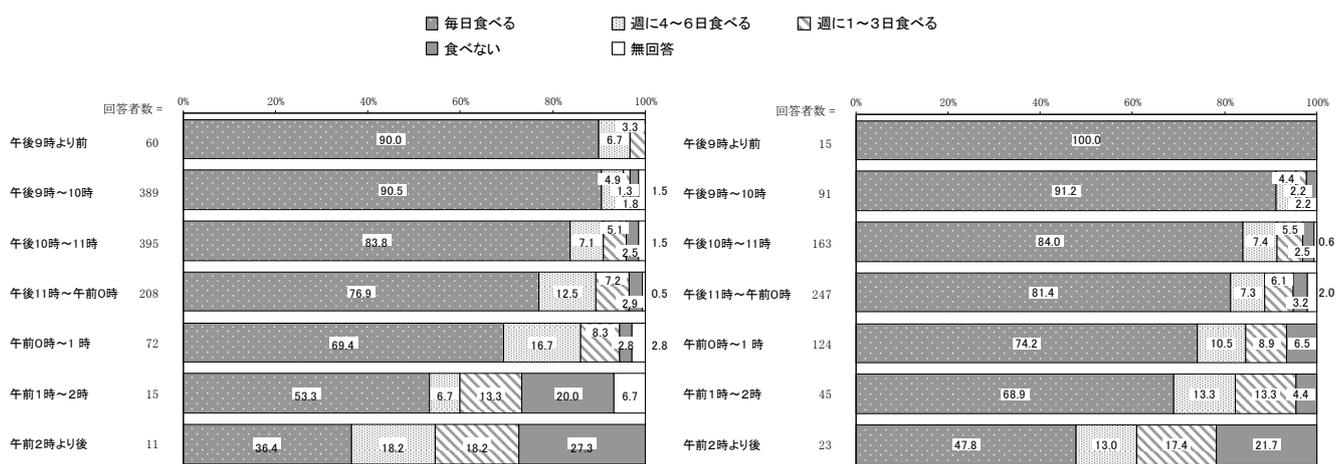
■市民アンケート結果

◇あなたは、いつも朝ごはんを食べていますか

小学生・中学生・市民すべてで就寝時間が遅くなるほど朝食を「毎日食べている」割合が低くなる傾向があります。

【小中学生・就寝時間別】

【市民・就寝時間別】

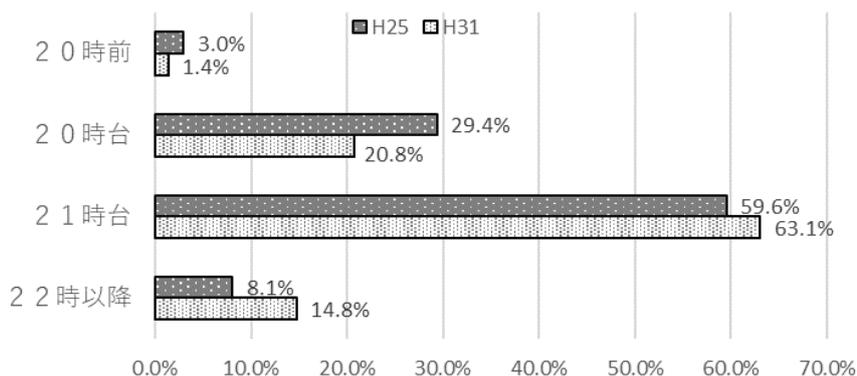


■保育園アンケート結果

◇お子さんの就寝時間（平日）は何時ですか

策定時と比べ就寝時間が21時以降の園児が増えています。

【保育園】



■市民アンケート結果

◇あなたは、自身の食生活について何か問題を感じていますか

性年代別にみると、男女とも 20 歳代で「栄養バランスが悪い（野菜不足）」の割合が高くなっています

【市民・性年代別】

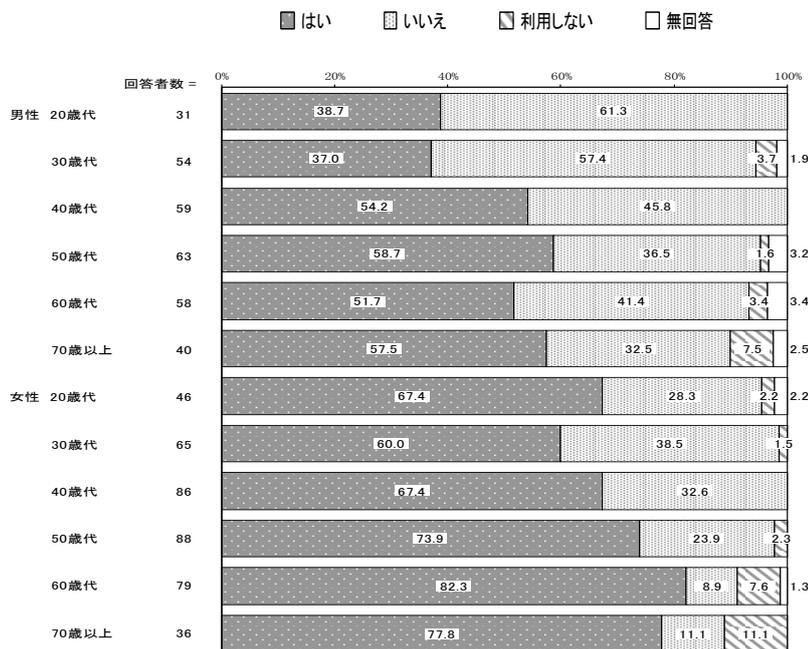
単位%

区分	有効回答数(件)	特に問題を感じていない	食べすぎてしまう	食欲がない	間食が多い	栄養のバランスが悪い(野菜不足など)	欠食がある	食事の時間が不規則	その他	無回答
男性 20歳代	31	29.0	22.6	6.5	12.9	38.7	9.7	22.6	—	—
30歳代	54	20.4	31.5	1.9	18.5	38.9	9.3	44.4	—	1.9
40歳代	59	25.4	42.4	3.4	15.3	27.1	6.8	25.4	3.4	—
50歳代	63	36.5	28.6	4.8	12.7	30.2	4.8	20.6	4.8	3.2
60歳代	58	43.1	17.2	1.7	15.5	13.8	1.7	13.8	1.7	3.4
70歳以上	40	47.5	17.5	—	17.5	25.0	—	5.0	5.0	—
女性 20歳代	46	32.6	23.9	2.2	21.7	37.0	6.5	19.6	2.2	2.2
30歳代	65	24.6	26.2	—	26.2	44.6	9.2	10.8	6.2	1.5
40歳代	86	18.6	33.7	4.7	37.2	39.5	4.7	15.1	3.5	—
50歳代	88	36.4	25.0	4.5	25.0	33.0	8.0	26.1	1.1	—
60歳代	79	43.0	20.3	1.3	20.3	24.1	2.5	6.3	3.8	1.3
70歳以上	36	47.2	19.4	5.6	22.2	13.9	—	5.6	5.6	—

◇外食や中食を利用するとき、野菜を摂るなど栄養バランスに配慮していますか

性年代別にみると、他に比べ男性の 20 歳代・30 歳代で「いいえ」の割合が高くなっています。

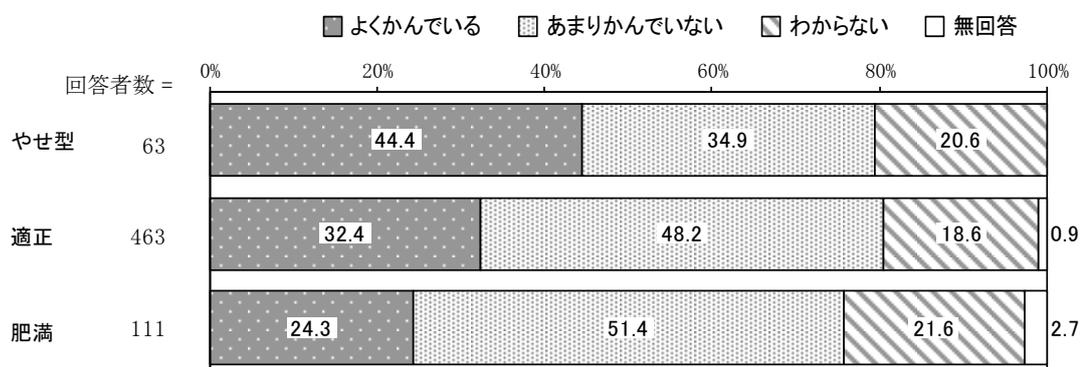
【市民・性年代別】



◇あなたはよくかんで食べるようにしていますか

BMI別でみると、肥満な人ほど「あまりかんでいない」の割合が高くなっています。

【市民・BMI別】



■課題と今後の取り組み

○就寝時間が遅くなるほど、朝食を欠食する人の割合は増加しており、生活スタイルの夜型化を背景に食生活の乱れがみられます。朝食摂取の重要性だけでなく「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムの定着を推進していきます。

○生活習慣病予防や改善のためには栄養バランスの良い食事を摂ることが重要です。若い人を含む仕事や育児で忙しい働き盛りの年代を中心に、栄養のバランスが悪い（野菜不足）と感じている人が多いです。外食や中食等での栄養バランスのとり方について、地元企業管内保健所と協力して出前講座等を実施し啓発していきます。

○よく噛むことは全身の健康につながります。食事をいつまでもおいしく食べられるよう、定期的な歯科健診受診を促し、8020 運動、9020 運動を推進していきます。

また、医療機関、家庭、学校、保育園と連携し、口腔の健康についても周知・啓発していきます。

3 食を取り巻く環境を整えよう

■評価指標の目標値と現状値

評価指標	対象者	策定時 (H25 年度)	目標値 (R6 年度)	現状値 (R1 年度)	判定
食生活改善推進員（現：食育知立（ともだち）の会会員）の人数		35 人	40 人	28 人	D
学校給食における愛知県内産の食材使用率		39.5%	45%	55.1%	A
愛知県産のものを意識して購入する人の割合	市民	32.8%	55%	28.2%	D

- 「食育知立（ともだち）の会会員数」は減少しています。
- 「学校給食における愛知県内産の食材使用率」は目標を達成しています。
- 「愛知県産のものを意識して購入する人の割合」は減少しています。

■これまでの取り組み

◎ 食育を進める体制を整えよう

- ・食育知立（ともだち）の会会員の養成や活動支援（健康増進課）
- ・健康推進員講座での食育知立（ともだち）の会による栄養実習の実施（健康増進課）

◎ 安心安全に食べよう

- ・地元生産者の方が作る旬の「元気野菜」や旬の愛知県内産食材の給食での使用（子ども課・教育庶務課）
- ・給食の利用や食育だよりでの地場産物の紹介（学校教育課）
- ・食物アレルギー対象者へ除去食または対応食の提供や、対象保護者と給食提供側（園・学校・給食センター）の面談等による情報の共有（子ども課・教育庶務課・学校教育課）
- ・消費生活講座の開催（経済課）
- ・市内小売店を対象とした量目検査の実施（経済課）

◎ 環境に優しい食育を進めよう

- ・ごみの減量・分別化を目的とした講座の開催や「ごみ出しガイドブック」の作成、アプリの充実、フードドライブ事業の実施（環境課）
- ・生ごみ処理機器の購入費助成、貸し出し事業によるごみの堆肥化（環境課）
- ・残菜処理設備利用によるゴミの減量（教育庶務課）

【フードドライブ事業】

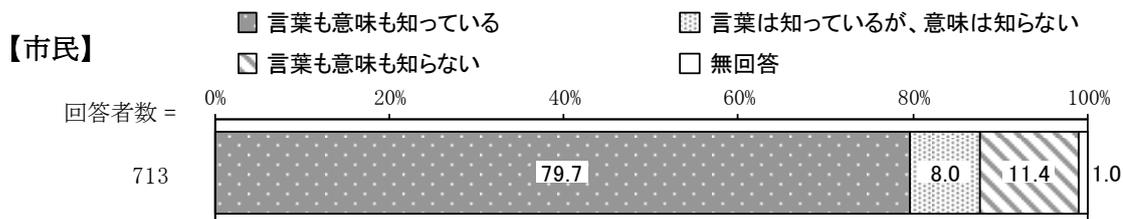
家庭で余っている食べ物を回収し、それらを福祉施設やフードバンクなどに寄付する活動。

※日本では本来食べられるにも関わらず廃棄される食品いわゆる「食品ロス」が年間約 643 万トン排出されています。（農林水産省及び環境省「平成 28 年度推計」）

■市民アンケート結果

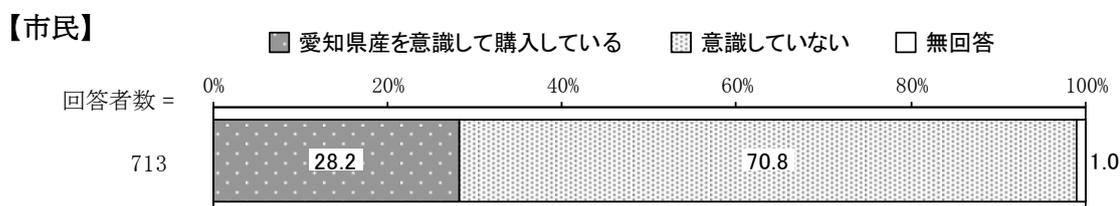
◇あなたは「地産地消」という言葉やその意味を知っていますか

「言葉も意味も知っている」の割合が79.7%となっています。



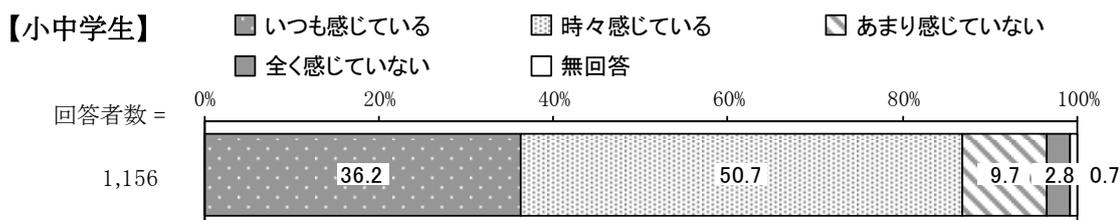
◇あなたは愛知県産の農林水産物を意識して購入されますか

「愛知県産を意識して購入している」の割合が28.2%となっています。



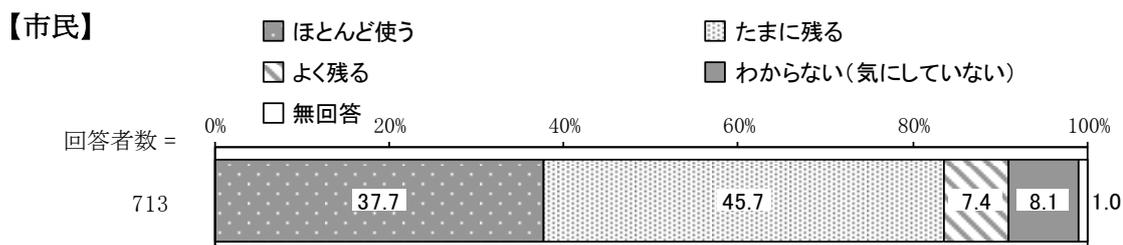
◇あなたは食べ残しや食品を捨てることに関して、日頃から「もったいない」と感じることはありますか

「いつも感じている」と「時々感じている」を合わせた“感じている”の割合が86.9%となっています。



◇ご家庭の食品（食材）は、食べきって（使い切って）いますか

「たまに残る」と「よく残る」を合わせた“食べきらず残る”の割合が53.1%となっています。



■課題と今後の取り組み

- 食育知立（ともだち）の会会員養成講習会の受講者数は少ない状況です。現在の会員に向けての支援をするとともに、健康推進員講座や健康まつりでの機会を通じ、活動をPRし会員募集に努めます。
- 地産地消という言葉や意味を知っている割合は8割いますが、実際愛知県産の農林水産物を意識して購入している割合は3割未満と少ないことから、食生活の基本となる「食べ物を安心安全に食べる」ことと環境に優しい暮らしを結び付け、地産地消の意味や愛知県産の食材情報発信を学校や園だより等を通じて啓発します。
- 行事食や伝統食はその地域の文化や生活と関係が深く、使われる材料も身近なその地域の食材を利用することが多くあります。行事食や伝統食を伝える講座や教室にて地場産物の利用の啓発や、保育園や学校での給食を通じて家庭にも紹介をしていきます。
- ご家庭の食品（食材）を食べきらず残ると答えた割合は5割を超えています。食べ残しや食品の廃棄・ごみの量の増加は大きな環境問題になっているため、フードドライブ事業の実施や調理の工夫などにより、食べ残しや食品の廃棄を減らすための取り組みを推進します。

第5章

計画後半に向けた活動戦略

第2次健康知立ともだち21計画・第2次知立市食育推進計画を、実効性のある計画として着実に推進して行く為に、計画後半に向けて下記のように実施していきます。

1 健康づくり応援キャラクター「かっきー」に加え、「ちりゅっぴ」を活用し、親しみやすい情報発信をします。

「かっきー」は、健康知立ともだち21計画（第1次）のイメージキャラクターとして、平成20年度に市民の皆様からの公募により誕生しました。「ちりゅっぴ」は知立市のマスコットキャラクターとして、幅広く市民に周知され、人気があります。第2次計画の推進にあたり、各種印刷物やホームページなどに積極的に活用していきます。

2 ウェブを有効利用し、若年層が効果的に取り組める情報を発信します。

生活習慣に関する情報の提供や各種健診の予約、心身の状態のセルフチェック等にホームページなどのウェブを有効利用し、情報をタイムリーにわかりやすく発信することに加え、SNSを活用した相談窓口の紹介など若年層に対して効果的に情報提供します。

3 各課と連携し、一元的な情報提供をします。

ウォーキングやクッキングなど、様々な課で実施されている健康づくり事業について、一元的に情報提供できる仕組みの構築や健康づくりハンドブックの作成を検討します。

4 健康マイレージ事業で市民が意欲的に健康づくり、食育に取り組める仕組みを作ります。

幅広い年齢の市民が楽しみながら意欲的に健康づくり、食育に取り組める仕組みを構築し、市民が主体的に取り組んでいくことを支援します。

5 実施計画を作成し、年度毎の各課の具体的な事業を明確化します。

各課の具体的な事業を明確化する為に年度毎の実施計画を作成し、「知立市保健対策推進会議」において内容を検討し、事業実績についても進捗管理を行います。